

第3章

平城宮・京出土の植物種実

I 平城宮跡出土の植物種実

1. 平城宮跡植物種実出土遺構の概要

和銅3年(710)に藤原京から平城京に都が遷された。藤原宮と異なり、平城宮は京域の北端に置かれた。平城宮の内部には、藤原宮と同様に内裏や、大極殿、朝堂、そして様々な役所群が配置されている。これまでの調査の蓄積によって、各施設群で数時期の遺構変遷が認められているが、特に、奈良時代の前半と遷都後の奈良時代後半とで大きく変化することが分かっている。

平城宮跡における植物種実出土遺構は、便所あるいは糞便遺構、井戸、廃棄土坑、溝(宮内基幹排水路など)である。このうち、便所あるいは糞便遺構は、まだ東方官衙地区で見つかった数例にすぎない。これに対して、井戸や土坑、溝については多くの発掘事例があり、木簡をはじめとして多くの人工遺物が見つかった。植物種実をについても数多く回収されているが、定量的な分析を念頭に置いた調査事例が少ない。多くはピックアップ法によっており、また篩がけが行われたとしても2mm目以上の選別によっている。このことに注意が必要である。以下、上述の順に、植物種実が出土した遺構の概要およびそこから出土した種実の数量を見ていく。なお、植物種実出土遺構の位置は、第7図に示した。

2. 便所あるいは糞便遺構

a. 東方官衙糞便遺構

第440次調査において6基検出した。これらの遺構からは土器等の資料があまり得られておらず、年代は判然としないが、周辺の遺構との関係から奈良時代末までには埋没していると考えられる。植物種実はSX19198を除いて200ccの土壌を0.25mm目の篩で水洗選別したもので、SX19198のみ約3000ccの土壌を2mm、1mm、0.5mm目の篩を用いて選別した。詳細については、『奈文研紀要2010』と『奈文研紀要2013』にて報告しているので、そちらを参照されたい。なお、これらの遺構群の種実の数量は第6表に、写真は巻頭図版1に示した。

SX19196 平面形は東西にやや長い隅丸方形で、東西62cm、南北50cm、残存する深さは最大20cmである。埋土は黒褐色や褐灰色の粘性の強い砂質土で、篝火97点と炭化物を含む。篝火の間からは、数十粒で1単位をなすメロン仲間種子が数単位で検出された。

植物種実は、キイチゴ属核221点、メロン仲間種子88点と多く、ナス、コナギ、スゲ属、ホタルイ属を含む。

SX19197 平面形は隅丸方形で、南北60cm、東西50cm、残存する深さは37cmである。埋土は黒褐色や褐灰色の粘性の強い砂質土で、篝火36点を含む。

植物種実には、イヌホウズキ種子21点、アリノトウグサ果実14点、カヤツリグサ科果実11点と雑草類と考えられる種類が多い。イネ類、ナス種子、メロン仲間種子、サンショウ属果実、シソ属果実も少数だが存在する。

SX19198 平面形はややいびつな方形で、東西、南北ともに70cmをはかる。残存する深さは30cmである。埋土はSX19197と同様で、篝火7本を含む。

200ccの水洗選別から回収された種実では、キイチゴ属核156点、メロン仲間種子81点(破片18点)と多く、イヌホウズキ種子、スゲ属果実、ナス種子、カヤツリグサ科果実、イネ類、アリノトウグサ果実、ホタルイ属、マタタビ属種子、イネ科類、コナギ種子、ミゾソバ果実、ザウロソウ種子、カタバミ属種子と続く。一方、約3000ccから回収した種実では、キイチゴ属核10442点(破片39点)、メロン仲間種子5401点(破片2386点)、ナス属種子928点、ナス610点(破片201点)と、これらが多数を占める点は200ccの結果を追認するが、アケビ属種子918点(破片637点)、イタビカズラ節核526点(破片5点)、ヤナギタデ果実371点(破片23点)、クワ属核278点(破片1点)、ムベ種子163点(破片9点)など、200ccの中には含まれていないにもかかわらず、比較的多く含まれるものも存在する。このほか、ヤマモモ核、ヤマブドウ種子、カキノキ種子、ブドウ属種子、エゴマ果実、シソ属果実などの食用植物も豊富に存在し、キケマン属種子、カタバミ属種子、アリノトウグサ種子、エノコログサ属有ふ果、カヤツリグサ属果実、ホタルイ属果実など雑草類も少なからず存在する。

SX19199 平面形は不整形で、東西は最大で96cm、南北は最大で60cm、残存する深さは26cmである。埋土は上層と下層で分かれ、下層は暗黄灰細砂、上層は黒色砂に下層の土がブロック状に入る。篝火56点を含み、遺構の西北隅にはU字形の黒色砂質土の塊があった。

種実分析では上面と篝火付近の2ヶ所でおこなったが顕著な違いは認められない。カヤツリグサ科がやや多く、アリノトウグサ、スゲ属など雑草類が主体を占める。食用植物では、メロン仲間の破片が確認されている。

第6表 平城宮跡出土の植物種実（1）

分類群	部位	SX19198		SX19196	SX19197	SX19198		SX19199		SX19202		SK19189		
		埋土		篝火上	上層	上層	上面	篝火付近	下層	篝火周辺	A・16層	B・21層	C・22層下	
木本														
ヤマモモ	核	84	38									3		
クリ	果実		6											
モモ	核													1
キイチゴ属	核	10442	39	221		156				4	1			
アケビ属	種子	918	637											
ムベ	種子	163	9											
カキノキ	種子	57	70											
カキノキ属	種子	5	1											
クワ属	核	278	1											
イタビカズラ節	核	526	5											
マタタビ属	種子	62				1								
シマサルナシ	種子									1	2			
サンショウ	種子	10	2											
サンショウ	果実	1												
サンショウ属	果実				1									
ヤマブドウ	種子	19												
ブドウ属	種子	12	1											
草本														
イネ	穀類	10	47											
イネ	類				10	5				18	1	30	1	19
ヒエ	類				1					5	1	5		
ヒエ	有ふ果	59	6											
アワ	有ふ果	1												
イネ科	類				1	1				2		3	6	2
ナス	種子	610	201	12	2	4	7	1				33	5	
イヌホウズキ	種子				21		11	2	1	34		85	3	
ナス属	種子	928												
メロン仲間	種子	5401	2386	88	1	3	81	18	2	1	9	11	29	19
ウリ属	種子	29	2											
エゴマ	果実	19	36								16	102	8	48
シソ属	果実	2			1						1	1	1	4
シソ科	果実										1	1		15
ゴマ	種子										8	11	6	12
ヤナギタデ	果実	371	23											
サナエタデ	果実	1											6	76
イヌタデ	果実	3												
イシミカワ	果実	1												
ギンギン属	果実	1												
ミゾソバ	果実					1								
タデ属	果実				1				1		1			19
ノミノフスマ	種子	3												11
ナデシコ科	種子				1				1	22			34	4
ムラサキシキブ属	核		1											36
アカザ属	種子												1	
キクマン属	種子	96												
カタバミ属	種子	4				1		1	1	3	1		19	6
アリノトウグサ	種子	13	2											2
アリノトウグサ	果実				14	3		2	4	21	1			18
イボクサ	種子	1												13
メヒシバ属	果実	1												
エノコログサ属	有ふ果	5												
エノコログサ属	類										3		6	11
カヤツリグサ属	果実	11												
ホタルイ属	果実	39	8	4	1	9	2	1	1	6	8	1		
スゲ属	果実			5	1		9		1	3	5	15		
カヤツリグサ科	果実					11	7		10	5		1	5	2
アブラナ科	種子					5							4	2
ヒユ属	種子												7	
キク科	果実												1	
ヘラオモダカ	果実												1	
チドメグサ属	果実							1					20	2
コナギ	種子			11		2	1	1	2	2				4
キジムシロ属	種子					1								
イグサ科	種子							2						
ザクロソウ	種子				14	1							5	8
不明・同定不能		42	4											52

SX19202 大部分は廃棄大土坑SX19189に壊されており、平面形は不明である。深さは35cmである。中層はオリーブ黒色の粗砂、下層は黒色粗砂で、篝火 26 点が出土した。

種実分析は、下層と下層の篝火周辺の2ヶ所でおこなったが、これも両者で顕著な差は認められない。両者ともイヌホウズキ種子がそれぞれ34点、85点、エゴマ果実が16点（破片102点）、8点（破片48点）と多い点が一致する。また、キイチゴ属核、シマサルナンシ種子、イネ類、ゴマ種子、メロン仲間種子など食用植物を豊富に含んでいる点も共通する。

2. 井戸・土坑・柱穴

(1) 井戸

a. 第一次大極殿院広場の井戸

SE9201 A 地区西南にある井戸。井戸の掘方は矩形を呈し、上下二段にわかれる。上段は南北 7.3 m、深さ 1.7 mあり、下段は上段掘方の西北寄りを深くしたもので、東西 4.9 m、南北 4.5 m、深さ 1.9 mであり、遺構検出面から底面までの深さは 3.6 mとなる。下段掘方の底には 4 段の井戸枿をとどめるが、その上部は抜き取られている。井戸枿採取痕跡は底から約 1 mの厚さで埋めもどされる（青灰色粘土）。井戸の内法は、方 2.25 mで、枿木の 1 段目と 3 段目には板を用い、2 段目と 4 段目には校倉の校木を転用している。井戸枿と掘方の間は木屑をまじえた灰褐色砂で裏込めし、井戸底には拳大の玉石を敷く（厚さ 10cm）。玉石敷の上部に堆積する暗灰色土は、10 世紀代の土師器があり、ほかに瓦片と木器があった。Ⅲ期およびそれ以降も使用されたことを示す。8 世紀後半ないし 9 世紀初頭に掘られ、10 世紀に廃絶。

植物種実とは、最下層の暗褐色粘土から出土したもので、モモ核 8 点（破片 1 点）、ウメ核 2 点（破片 1 点）のほか、破片資料として、ハシバミ堅果、クリ果皮、センダン核がある（第 7 表）。

b. 式部省東方官衙の井戸

SE17488 井戸掘方とともに井戸枿の採取穴も確認した。方形横板組の井戸枿をもち、井戸枿最下段のみが遺存。井戸枿の保存状態は良好で、縦 15cm、横 5cm、長さ 156 ～ 158cmのヒノキの角材 4 本を井桁に組む。内法寸法 132cmの正方形をなす。奈良時代初頭に掘られ、中頃に廃絶。

第 7 表 平城宮跡出土の植物種実（2）

分類群	部位	SE9201	東楼 SB7802	西楼SB18500	
		暗褐色粘土		掘方	採取
木本					
チョウセンゴヨウ	種子				1
ヤマモモ	核				2
オニグルミ	核				18
ヒメグルミ	核				4
ハシバミ	果実				1
ハシバミ	堅果	2			1
クリ	果皮	9			94
ウメ	核	2	1		14
モモ	核	8	1	7	34
スモモ類	核				2
サクラ節	核				5
ナシ亜科	種子				3
ナシ亜科	果実			2	1
センダン	核	1			1
ナツメ	核				3
カキノキ	種子				12
マツ属複維管束亜属	球果				4
モミ属	種子				1
アラカシ	堅果				1
クスギ	堅果				1
コナラ属	堅果				2
アカガシ亜属	幼果				2
ムクノキ	核				1
サンショウ	種子				3
サンショウ	果実				1
イヌザンショウ	種子				1
ブドウ属	種子				7
バラ属	核				4
バラ属	果実				3
アオツツラフジ	核				10
モチノキ属	種子				4
草本					
イネ	籾殻				1
トウガン	種子			1	3
メロン仲間	種子				154
ヒョウタン仲間	種子				1
ヒョウタン仲間	果皮				○
ゴキツル	種子				1
サナエタデ	果実				1
カヤツリグサ科	果実				5
不明・同定不能					3

第 8 表 平城宮跡出土の植物種実（3）

分類群	部位	SE17488				SE17505										一括
		一括	暗灰粘土	灰黒粘土	粹内	抜取	掘方	筒内	粹内							
								木屑層	木屑層	灰緑砂	灰青砂	暗灰砂	暗灰黒粘土	一括		
木本																
ヤマモモ	核				1											
クリ	果皮	1			1		2	3			1					
ウメ	核				1			9				1				
モモ	核		1		1	1		3	2	1			1	3	2	
ナシ亜科	種子							42	5	6	11		28	22	1	54 156
ナシ亜科	果実	1					2	6						2		2
ナシ亜科	幼果							1							1	
センダン	核							3	1					1		
ムクロジ	果実															
ムクロジ	種子			1	1							1				
カキノキ	種子									1					3	
カキノキ属	種子									3						
コナラ属	堅果					4					2				2	
コナラ属	幼果						1					5				
コナラ属	殻斗											3				
アカガシ亜属	幼果											1				
アカガシ亜属	殻斗						2					1	2		1	
ブドウ属	種子						1					3				
エゴノキ	核			1			3					1				
トチノキ	未熟果											1				
草本																
ヒシ	果実											1				
メロン仲間	種子							2	3			1	1		3	
ヒョウタン仲間	種子							13								1
ヒョウタン仲間	果皮				○											
不明・同定不能							4	2				3				

第9表 平城宮跡出土の植物種実（4）

分類群	部位	大膳職		内裏北外郭			玉手門	馬寮		東院庭園				
		SK219		SK820	SK2102	SK2101	SK1623	SE6166	SE7094	SE16030 枿内				SD16040
		現状	学報							灰色砂粘	暗褐粘土	暗灰粘土	一括	木樋埋土
木本														
カヤ	種子			1										
ヤマモモ	核												○	
オニグルミ	核	156	1 337	3	1	4	4			1	21			
ヒメグルミ	核	97	1 130			1			1	1	1			
クルミ類	核		1 224											
ハシバミ	果実		12 34	2										
ハシバミ	堅果					1								
クリ	果皮		1 16	100<		1 65				2	1 13	43		7
ツブラジイ	果皮			13										
シイノキ属	堅果										1			
アンズ	核		19 5											
マンシュウアンズ	核		3											
モウコアンズ	核		2											
ネッカアンズ	核		1											
ウメ	核				2	1					39 18	1		1
モモ	核	1	23 9	1 2	9 7	1 1	4	1	1	4	41 15	4 1		1
スモモ類	核		4 1			1			2		18 5	3		4
サクラ節	核										5 1			
サクラ属	核										12 5			
ナシ亜科	種子			4							14 4			
ナシ亜科	果実										3			
センダン	核									5 1	1241 68	12 3		
センダン	種子										54 6			
ムベ	種子			10 1							1			
アケビ属	種子										1			
ナツメ	核			7 1									1	
カキノキ	種子		7	1		6				1	3 21			1
マツ属複雑管束亜属	球果					2 2								
ヒノキ	球果			1										
イチイガシ	堅果		14 37											
アラカシ	堅果			2										
シラカシ	堅果		19 12											
クスギorアベマキ	殻斗													3 14
コナラ属	堅果										6			
アカガシ亜属	堅果												1	
アカガシ亜属	殻斗												4	
ムクノキ	核									4	15	10		
クスノキ	種子									2	1	1		
エノキ	核											2		
フジ属	種子		1											
マメ科	種子									1				
サンショウ	種子			4						2 3				
ウルシ属-ヌルデ	内果皮													
ブドウ属	種子							19		1	6	1		
チャノキ	種子		1								10	18 1	2	
クサギ	核										7 1	2		
トチノキ	堅果		8 21											
アオツツラフジ	核										5	2		
バラ属	核										2			
草本														
イネ	穀殻			6 7		2								
ハス	果実		4											
ヒシ	果実		1											
ナス属	種子										1			
トウガン	種子										3 1			
メロン仲間	種子	89	31	52 6		9 7				7	4 1	2 1	11 2	
カラスウリ属	種子													
ウリ属	種子		2											
ヒョウタン仲間	果皮			3								○	○	
ウリ科	果実													
カガイモ	種子					5					4			
アブラガリ	種子		11											
イシミカワ	果実										18 10			
ギシギシ属	果実											1 3		
ウナギツカミ	果実												6	
タデ科	果実										13	11 1		
オニバス	種子										1			
スゲ属オニナルコ節	果実												1	
キクマ属	種子									37				
イボクサ	種子										2	2 2		
ヤブジラミ属	果実										8			
ツユクサ	種子										3		10	
不明・同定不能											32	34 1	2	

井戸枿内の出土種実には、ヤマモモ核1点、ウメ核1点、モモ核1点などがあり、コナラ属の堅果もある（第8表）。

SE17505 東西3.5 m、南北4 mの掘方の南半部に寄った位置で、井戸枿の抜取穴とヒノキ材一本刳抜の井筒を検出した。断面観察により、井戸枿などの上部構造の抜取痕跡を確認した。井筒は高さ約1.8 m、外径約1.1～1.3

m、材厚は 10～20cm で東西部分で厚く、水平断面は東西に長い倒卵形をしている。井筒の年輪年代は養老 7 年(723) 伐採。材の大きさからみて、転用品とは考えにくい。奈良時代中ごろに掘られ、平安時代初頭に廃絶。

井戸枠内埋土からは、ナシ亜科種子を主体として、モモ核、ウメ核、クリ果皮、コナラ属堅果、ブドウ属種子、メロン仲間種子などが少量出土している。また井筒内の木屑層からも、ナシ亜科種子、モモ核、ウメ核、センダン核、ヒョウタン仲間種子、メロン仲間種子などが出土しており、井戸枠内埋土とほぼ同様の組成を示す(第 8 表)。

c. 馬寮の井戸

SE6166 馬房と推定した南北棟建物 SB5951 の西南脇にある井戸。掘方は一辺 2.7 m の方形で、深さ 2.5 m あり。ほぼ中央に井戸枠を据える。井戸枠は長さ 1.3 m、成 25cm、厚さ 2.5cm の板を蒸籠組したもので、底から 10 段目までが遺存する。井戸枠内堆積土からは、平城宮土器編年Ⅳ～Ⅴ(以下、平城宮○と略す)に属する土器や斎串、曲物などの木製品が出土しており、奈良時代末まで存続したことは確実である。8 世紀後半。

出土層位は不明だが、ブドウ属種子が 19 点出土している(第 9 表)。

SE7094 SB3671 のすぐ東にある井戸である。掘方は一辺 6.8 m の方形で、深さ 1.7 m あり、東北寄りに縦板組の井戸枠が残る。井戸枠は内法で方 90cm。埋土は大きく 2 層に分けられ、主として下部の灰砂層からは 10 世紀頃の土器類、上部の黒灰色粘土層からは櫛が出土した。

出土種実は、モモ核 1 点、ヒメグルミ核 1 点(破片)、スモモ類核 2 点(破片)がある(第 9 表)。

e. 東院の井戸

SE16030 一辺約 5 m の方形の掘方の中に、幅 20cm、厚さ 10cm のヒノキの板材を縦に 20 枚並べて円形の井戸枠を作る。周囲には石敷 SX16036 があり、さらにその周りに SD16031～SD16034 の 4 本の溝を方形にめぐらせる。井戸は SB16035 の中央ではなく、東南部に偏る。これらの石敷、石組溝は後の整地土で埋められるが、SE16030 は上部に河原石を 2 段に積んで井戸枠とし、さらに使用が継続する。井戸の掘方からは軒平瓦 6721、井戸構築時の整地土から軒平瓦 6762 が出土した。奈良時代後半に掘られ、平安時代初頭に廃絶。

この井戸の枠内埋土(暗褐粘土)からは多数の種実が出土している。最も多いのはセンダン核で 1241 点(破片 68 点)、次いでセンダン種子 54 点(破片 6 点)、モモ核 41 点(破片 15 点)、ウメ核 39 点(破片 18 点)などが続く。このほか、スモモ類核 18 点(破片 5 点)、サクランボ属サクランボ核 12 点(破片 5 点)、ブドウ属種子 10 点、クサギ核 7 点(破片 1 点)、オニグルミ核 21 点(全て破片)、カキノキ種子 3 点(破片は 21 点あり)、メロン仲間種子 4 点(破片 1 点)、イシミカワ果実 18 点(破片 10 点)、タデ科果実 13 点、ウルシ属 - ヌルデ内果皮 6 点など、食用植物を中心としながら雑草類も含む多様な組成を示す(第 9 表)。

(2) 土坑

a. 大膳職土坑

SK219 東西 3 m、南北 3.5 m、深さ 1.0 m の北半部と、東西 3 m、南北 2.5 m、深さ 1.0 m の南半部に分かれるが、堆積土に差はなく、同一個体の土器の破片が南北にわかれて出土していることから、南北とも存続、埋没は同時であったと考えられる。土坑内は、埋土と思われる厚さ約 40cm の遺物を含まない赤褐色粘土の下に、厚さ 20～30 cm の灰色砂と厚さ約 10cm の泥土があり、その下が粘土質地山の底となる。遺物として檜皮が灰色砂の上面で、木簡、瓦、土器、漆製品、木製品のほとんどが灰色砂中から、少量が泥土中から検出された。土器が明らかに破損したものであることや、土坑の周囲から投げ込んだことを暗示するように同一個体の破片が土坑底と壁面上部に張り付いた状態で検出されていることなどから判断して、この土坑は一時期の塵芥処理のためのものであったと考えられる。出土した木簡は天平宝字 7 年(762)を下限とする。

出土種実の数量は豊富である。報文(奈文研 1962)によると、メロン仲間種子 89 点(破片 31 点)をはじめとして、モモ核 23 点(破片 9 点)、アンズ核 19 点(破片 5 点)、シラカシ堅果 19 点(破片 12 点)、イチイガシ堅果 14 点(破片 37 点)、ハシバミ果実 12 点(破片 34 点)、アブラギリ種子 11 点、トチノキ堅果 8 点(破片 21 点)と続く。このほかに、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮、アンズ類核(マンシュウアンズ・モウコアンズ・ネッカカンアンズ)、カキノキ種子破片、フジ属種子、チャノキ種子、ハス果実、ヒシ果実などが出土している(第 9 表)。

b. 内裏北外郭土坑

SK820 天平 19 年(747)を下限とする内容豊富な多数の木簡とともに、保存状況のよい多数の土器、瓦、木製品が出土した。土坑の平面はほぼ方形(方 3.8 m)を呈しており、底(方 3.2 m)までの深さは遺構面から 1.7 m(地表から 2.3 m)である。土坑の底には樹葉を主体とする暗緑色土層(厚さ 5cm)が堆積していた。この層には、木簡をはじめとする若干の遺物を含む。この上には、有機質を大量に含む暗褐色土層(厚さ 50cm)が堆積していた。多

量の遺物は、暗褐色土層の全体にまんべんなく含まれており、土層が短期間に形成されたことを示している。暗褐色土層の上には、土坑の上面まで土坑の上面まで赤褐色土層が厚くつまっていた（115cm）。この土層には土器、瓦を少量含むが、堆積状況や砂・礫の混在状況からみて、明らかに穴を埋める目的で人為的に投入されたものである。

出土種実は、メロン仲間種子 52 点（破片 6 点）をはじめとして、ムベ種子 10 点（破片 1 点）、ナツメ核 7 点（破片 1 点）、イネ粃殻 6 点（破片 7 点）、サンショウ種子 4 点と続く。このほか、カヤ種子、オニグルミ核、ハシバミ果実、クリ果皮、モモ核、ナシ亜科種子などが少量出土している（第 9 表）。

SK2101 平面ほぼ方形（東西 3.5 m、南北 3.4 m）の土坑。深さは遺構面から 35cm である。土坑内埋土は 7 層にわかれるが、大きく上下 2 層に大別できる。すなわち、木簡、木製品、瓦、土器を含む暗褐色土層の上に、遺物を含まない木炭層と灰砂層は覆っており（下層）、穴が埋まりきらずに凹みとして残ったため、ここに土器を捨て、土（黒色砂、暗黄褐色土）で覆ったらしい（上層）。ただし、上下層のそれぞれに含む土器の間には時期的な差異はない。この土坑は、整地土の最上面から掘られており、層位的に見て北 3 m にある土坑 SK2102 より新しい。木簡の紀年は天平 18 年（748）から天平勝宝 2 年（749）におよぶ。

出土種実は、メロン仲間 9 点（破片 7 点）のほか、ウメ核、モモ核、スモモ類核それぞれ 1 点ずつある。破片資料として、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、カキノキ種子、イネ穎などがある（第 9 表）。

SK2102 大土坑 SK2100 の中に掘られた土坑（東西 3.8 m、南北 2.4 m、深さ 0.3 m）である。土坑の底を覆う粘土層（10cm）には遺物はわずかしきみられなかった。その上に大量の檜皮・木材片からなる有機質（木簡含む）と、粘土塊をまじえた層（20cm）が堆積していた。この土坑は、南に近接する土坑 SK2101 より古い。木簡には、神亀 5・6 年（728・729）の紀年をもつものがある。また、木簡の内容には造営関係の記載があり、この地域の造営にかかわるゴミ処理の土坑とみられることから上記の年代をあまり下らずに埋没したものと考えられる。8 世紀前半か。

出土種実には、モモ核 9 点（破片 7 点）、ウメ核 2 点、オニグルミ核破片 1 点がある（第 9 表）。

c. 玉手門地区土坑

SK1623 玉手門の正面で検出した東西 4 m、南北 4.6 m、深さ 1 m の長方形の土坑。土坑内には周囲から投げ込んだ状態で、5 層にわたる堆積土が確認された。平安時代の土器が出土している。9 世紀か。

出土種実には、オニグルミ核とモモ核が 4 点ずつあるが、いずれも破片資料である（第 9 表）。

d. 東方官衙地区大土坑

SK19189 木屑を主体とする廃棄物の土坑。東西約 11 m、南北約 7 m の不整形で、深さは約 1 m である。土坑の堆積層序は、下から①木屑層、②粘性の強いシルトと細砂の混合層、③礫と粗砂の混合層、粗砂の順である。①は大きく 3 つの単位に分けられ、二度の拡張を経ていると考えられる。②には自然木の堆積が認められ、木質遺物も少量出土しているが、③には土器片や瓦片が多く、木質遺物はごく少ない。②③は土坑のくぼみに形成された堆積で、出土遺物は段階的に投棄されたものだろう。最上層の④は非常にしまりのある褐色土で土坑上面に広がっており、整地土と考えられる。この土坑からは大量の木簡が出土しており、年紀は 770 年代初頭に集中する。

出土種実は、16 層、21 層、22 層に分けて分析されている。いずれも①の木屑層である。16 層では、ナデシコ科種子、チドメグサ属果実、カタバミ属種子などの草本類が多い。少量ながら、ヤマモモ核、イネ穎、メロン仲間種子、エゴマ果実など食用植物も認められる。21 層では、タデ属果実、カタバミ属種子、シソ属果実、サナエタデ果実、ザクロソウ種子などが認められ、イネ穎も 19 点認められる。22 層下では、ザクロソウ種子が多く、ナデシコ科種子、カタバミ属種子、カヤツリグサ科果実、タデ属果実などの草本類が主体である。モモ核も 1 点認められる（第 6 表）。

（3）柱穴

a. 第一次大極殿院に関連する建物

東楼 SB7802 南門 SB7801 の東にたつ 5 間（22.9 m）× 3 間（11.52 m）の総柱南北棟建物。柱間寸法は桁行 4.58 m（15.5 尺）等間、梁行は 3.84 m（13 尺）等間である。総柱のうち、側柱は掘立柱であり、内部の柱を礎石建てとする。柱掘方は 3.5 m × 2.5 m の長方形を呈し、深さは 2.75 m という超大型である。ハ一柱穴を除いて、漏斗状の柱抜取痕跡がある。イ・ニの柱列は抜取痕跡が連続する。掘方埋土は地山の砂質土であるが、抜取痕跡には、瓦、土器、木器など遺物が比較的多く堆積する。一部の抜取痕跡には、柱根を支えた角材（17cm 角）の断片が 2 本ずつ残る。また二四の抜取痕跡には径 75cm の柱根が倒れており、それには貫穴が 2 か所あって、1 か所には支えの角材をなおとどめている。礎石据付痕跡は、方形掘方（方 2.7 m、深さ 15cm）の中心にあたる位置に、径 1 m 程度の根固めの礫が散布する状態で残る。SB7802 は、南面築地回廊の中層礫敷の改修時期に増築されたもの。柱抜取痕跡から出土した木簡によって、この建物は天平勝宝 5 年（752）以後に廃絶したことがわかる。

出土種実には、モモ核 7 点（破片 5 点）、ナシ亜科果実破片 2 点がある（第 7 表）。

西楼 SB18500 大極殿院の南門 SB7801 の西側、南面築地回廊 SC7820 の北側に取っついて建つ総柱建物。桁行 5 間、梁行 3 間の東西棟建物で、側柱のみを掘立柱とし、そのほかの柱を礎石建とする。南門の東側 SB7802 と対応し、ほぼ同じ構造をとる。掘立柱は基本的に東西に長大な抜取穴を有しており、直径が大きい柱を使用していたようである。抜取穴は一方の先が細くなる茄子状の長円形を呈し、南北幅が 3.5 m 程度であるのに対して東西幅は 6～9 m におよび、隣の抜取穴と連結している。深さは 2.4～3 m で漏斗状を呈しており、底辺で幅が 70～90 cm となる。柱掘方は、上半部は抜取穴で破壊されるが、下半部は残存する。柱掘方の規模は一辺 2.5 m～3 m の長方形であり、東西に長いものや南北に長いものなどがあって様ではない。内部の柱の礎石はすべて抜き取られており、ハ列では抜取穴が大きく、据付穴をとどめないが、ロ列では比較的良好な状態で据付穴を確認できる。

掘立柱の抜取穴の埋土は、下半は単位が厚く、その上から細くなる傾向がある。上半の細かい土層には木製品や木簡を大量に含むものがあり、最初に一気に埋め立てた後、廃棄土坑としても使いつつ、徐々に埋めていった様子がある。出土木簡の年紀には、天平 19 年（747）から天平勝宝 5 年（753）のものがある。

植物種実とは、そのほとんどが抜取穴から出土した。メロン仲間種子 154 点（破片 58 点）をはじめとして、モモ核 34 点（破片 20 点）、ウメ核 14 点（破片 24 点）、カキノキ種子 12 点（破片 6 点）と続く。このほかヤマモモ核、スモモ類核、サクラ属サクラ節核、センダン核、ナツメ核、マツ属複雑維管束亜属球果、コナラ属堅果、ムクノキ核、サンショウ種子、イヌザンショウ種子、バラ属核、バラ属果実、イネ籾殻、トウガン種子、ヒョウタン仲間種子、ゴキヅル種子、サナエタデ果実、カヤツリグサ科果実などがある。また破片資料として、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮、ハシバミ堅果、ナシ亜科果実がある（第 7 表）。

3. 排水路・溝状遺構

(1) 基幹排水路

西大溝 SD3825（315 次）佐紀池に源を発し、南に流れる排水路。位置はおおむね、平城宮の南面西門である若犬養門と、朱雀門との中間にあたり、宮西部の基幹排水路として機能していたと考えられる。奈良時代前期（Ⅰ期）に開削され、奈良時代末（Ⅱ期）に埋没する。幅 2.6 m～3 m、深さ 1.1 m の素掘溝で、堆積土は下から大きく、灰白色砂・暗黒色砂・白斑暗黒色粘土・暗黒色粘土・灰色砂・白色砂の 6 層に分かれる。暗黒色砂には大量の木屑を含んでいた。暗黒色粘土～白色砂は奈良時代後期（Ⅱ期）の土層である。溝はこの時期に堆積が進み、最後には幅 0.8 m、深さ 0.2 m ほどに狭まっている。それも奈良時代末には埋没し、機能が停止している。

出土種実として、メロン仲間種子 46 点（破片 1 点）、センダン核 6 点（破片 7 点）、モモ核 4 点（破片 3 点）などがある。

SD3825A 溝幅は最大で 1.8 m 残存。Ⅰ - 1 期に構築され、Ⅰ - 2 期に埋め立てられる。奈良時代前半。

出土種実とは、メロン仲間種子 46 点のほかは、ナシ亜科種子 2 点、カキノキ種子 1 点、オニグルミ核破片 1 点のみである（第 10 表）。

SD3825B 園池 SG8190 の南東隅の岸に、SD3825A から東に 70 cm ずらして取水口を造る。溝底は取水口付近で、SD3825A よりも約 60 cm 高い。埋土は暗褐色粘土で平城宮Ⅳの土器が出土している。Ⅰ - 2 期からⅡ期の造営まで存続。奈良時代前半から後半。

出土種実の数量は、A～C の中で最も多い。最も多いのはメロン仲間種子で 296 点（破片 4 点）、次いでセンダン核 60 点（31 点）である。その他の分類群として、オニグルミ核、クリ果皮、ツブラジイ堅果、モモ核、スモモ類核、ナシ亜科種子、マツ属複雑維管束亜属球果、アラカシ堅果、コナラ亜属堅果、ガマズミ属核、キカラスウリなど多様だが、いずれも 3 点以下が破片資料である（第 10 表）。

SD3825C 堤 SX18255 の改修とともに、園池 SG8190 から取水口を東に付け替えたもの。埋土は灰色砂もしくは黒色粘土。平城宮Ⅳ～Ⅴの土器を含む。奈良時代末まで開口。

出土種実には、センダン核とメロン仲間種子が多く、それぞれ 124 点（破片 73 点）、77 点（破片 3 点）ある。このほかにモモ核 11 点（破片 8 点）、マツ属複雑維管束亜属 6 点、アラカシ堅果、カキノキ種子破片 2 点などがある（第 10 表）。

SD3715 第一次大極殿院と内裏の間を流れる南北溝。これまでの調査（第 41 次・第 157 次）では、北は推定大膳職地区の北端から、南は平城宮南面大垣の南、二条大路北側溝にいたることが確認されている。幅 2～6 m の素掘溝で、深さは 2 m。東面築地回廊心より東に約 36.5 m を北から南に流れる。兵部省西側では埋土の状況から 3 時期の変遷を確認したが、第一次大極殿院周辺では 2～3 層に区分できるものの、遺物の逆転が見られるため、時期区分は困難である。遺構全体を通して氾濫と浚渫が繰り返されたようである。開削の時期は霊龜年間（715～720）ご

第 10 表 平城宮跡出土の植物種実 (5)

分類群	部位	宮内基幹排水路 SD3825									
		SD3825A		SD3825B		SD3825C					SD3825
		暗褐色粘土	灰白砂	白斑暗黒粘土	暗黒砂	その他	炭混灰粘土	灰褐色	灰色砂	暗黒粘土	315次
木本											
オニグルミ	核		1		1		3				4
クリ	果皮				2						7
シイ属	堅果										1
ツブラジイ	堅果				1	3					2
ウメ	核			5	1						1
モモ	核			2	1	4	3	7	2	1	2
スモモ類	核				2					3	3
ナシ亜科	種子		2		11						
センダン	核			58	30	2	1			124	73
カキノキ	種子		1							2	6
マツ属複維管束亜属	球果			1	1			4		2	7
マツ属複維管束亜属	種鱗									1	2
アラカン	堅果			1	2	1	2			1	
コナラ属	堅果				2						
コナラ亜属	幼果				6					2	
コナラ亜属	堅果					1					
アカガシ亜属	幼果					1					
アカガシ亜属	堅果			1						1	
アカガシ亜属	殻斗				3					2	
ブナ科	堅果				1	1					
ムクノキ	核										7
ガマズミ属	核				2						
草本											
メロン仲間	種子	1	45	67	229	4			2	75	3
キカラスウリ	種子				1						46
ヒョウタン仲間	果皮	○									1
不明・同定不能				1	3	1					

分類群	部位	宮内基幹排水路 SD3765・SD3715										
		SD3765		SD3715(157次)			SD3715(41次)					
		砂	暗灰土	石敷間	灰色粗砂	暗灰砂質粘土	1 黒	2 黒	1 砂	2 砂	3 砂	暗灰粘土
木本												
チョウセンゴヨウ	種子							1				
オニグルミ	核			4	3	7		1 5			4	
ハシバミ	堅果							1				
クリ	果皮				11	13	30	42			49	30
クリ	カット							1			5	
シイノキ属	堅果							4				
アズ	核							1				
ウメ	核				4	1	1			1		
モモ	核	1		1 2	1	3	5	1 6	1	2 4	2 2	1
スモモ類	核				1			1		1		
キイチゴ属	核											
センダン	核							1				
ムベ	種子										1	
ナツメ	核						2					
カキノキ	種子		1									2
マツ属複維管束亜属	球果		1									
草本												
ヒシ	果実											1
メロン仲間	種子	2	1 1				2					
ヒョウタン仲間	果皮							○				

ろとみられるが、和同年間までさかのぼりうるとの異論もある。一方、下限は上層埋土に平安時代初頭の土器が含まれていることから、Ⅲ期まで溝として機能していたと考えられる。

植物種実は、第 41 次調査では、モモ核が各層からまんべんなく出土しており、クリ果皮も比較的多い。このほかにチョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ウメ核、スモモ類核、センダン核、ムベ種子、ナツメ核、カキノキ種子などが出土しているが、いずれも 5 点未満が破片資料である。第 157 次調査では、これよりも種類が少なく、オニグルミ核、クリ果皮、モモ核、ウメ核、スモモ類核が出土している。

SD3765 第一次大極殿院地区を南北に流れる素掘りの南北溝（幅 1.6 m～2.6 m×深さ 60cm）。南方で深く、北方で浅い。北限を知ることができないが、南方は中央区朝堂院地区に南下することが判明している。溝の堆積土は、出土木簡により和銅年間には存在していたことがわかる。また、溝の使用期間は短く、一部では粘質土によって西側から短期間に埋め立てている様子を顕著にとどめていた。溝は東面築地回廊 SC5500 の東 14.3 m（48 尺）に位置している。第一次大極殿地域の排水路である暗渠 SD5555 および SD5584 がこの溝に注いでおり、築地回廊建設時に存在し、利用していたことは明らかである。奈良時代前半。

出土種実は、メロン仲間種子 3 点（破片 1 点）、カキノキ種子、マツ属複維管束亜属球果、モモ核破片がそれぞれ

1点ずつある（第10表）。

東大溝 SD2700（139次） 上幅2.0 m、底幅0.9 m、深さ1.4 mの規模で、人頭大の玉石を6～7段積んで護岸とした石組溝。堆積層は、石組の底面から上がさらに5層に分けられ、最下層に養老7～天平4年、下から2層目に神亀3～天平9年、4層目に天平宝字4～6年の紀年木簡が出土しており、最上層からは「天応」銘をもつ墨書土器が出土した。

主に植物種実が出土しているのは、灰砂②層と暗灰粘土層である。前者では、メロン仲間種子552点、モモ核22点（破片6点）、ナス属種子21点（破片17点）、キケマン属種子55点のほか、チョウセンゴヨウ種子（破片）、ウメ核、ムベ種子、サンショウ内果皮、タデ科果実などが出土している。後者では、モモ核10点（破片2点）、カキノキ種子6点（破片3点）、ナス属5点（破片1点）のほか、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ウメ核、スモモ類核、キイチゴ属核、センダン核、ナツメ核、サンショウ種子、ブドウ属種子、メロン仲間種子、タデ科果実などが出土している（第11表）。

東大溝 SD2700（172次） 東側は異質護岸、西側は素靴のままである。堆積層は大きく6層に分かれる。下から、①層は石積構築前の素掘りの時期にあたり、溝幅は5～6 m、深さ1.6～1.8 m。②層は素掘り溝の東岸を西に狭めた石積構築後の堆積で、溝幅は4～5 m、深さ1.2～1.4 m。③層は瓦を多量に含む土で溝の西半埋め立てて護岸としたもの。これによって溝幅は3～3.5 m、深さ1 m足らずに縮小。④の堆積により溝埋没。その後、東岸沿いに幅約0.6～0.8 m、深さ0.3～0.4 mほど掘り込んで細溝に改修し、⑤⑥によって埋没。①からは神亀元年～養老7年、②層からは天平から天平宝字年間、③④層からは天平勝宝～天平宝字年間の木簡。石積構築は天平年間前後、西岸を瓦で護岸したのは天平宝字年間前後、細溝に改修したのは奈良時代末。

植物種実は各層で出土しているが、そのうち灰砂、木屑層、灰褐砂層での出土数量が多い。これらの層に共通して多いのはモモ核で、それぞれ1139点（破片757点）、466点（破片286点）、2005点（破片1185点）である。そのほかの分類群は各層でばらつきがある。灰砂層では、モモ核に次いでウメ核174点（破片24点）、ヒメグルミ核67点（破片105点）、センダン核40点（破片18点）となり、木屑層では、メロン仲間種子が466点（破片29点）、ウメ核52点（破片7点）、ナス属種子17点（破片1点）となる。灰褐砂層では、ウメ核229点（破片48点）、センダン核172点（破片42点）、スモモ類25点（破片9点）などと続く。このほか、カヤ種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ハシバミ核、クリ果皮、ナシ亜科果実、ナツメ核、カキノキ種子、アキグミ種子、アカマツ球果、スズメウリ種子、カナムグラ種子など多様である。その他の層でも、例えば灰白バラス層では、ナス種子が254点出土しているほか、アンズ核も1点ある（第11表）。

SD3410 東面大垣 SA4340 の西側を北から流れる宮内基幹排水路。幅6～7.8 m、深さ1.1～1.3 m。SD3410にかかる橋状遺構 SX17640 以南では溝西岸が東に寄り、溝幅が狭まる。溝の堆積は上下2層に大別でき、上層の茶灰褐砂質土は平安時代以降の堆積。下層が奈良時代の堆積土で、幅5.3 m、深さ0.65～0.8 m。3～4期に区分できる。堆積土は、おおむね下から灰褐バラス、暗灰粘土、暗灰褐粘質砂、暗灰粘質土、暗灰砂質粘土（白色粒、木屑含む）、白色粒混黒灰粘土（木屑含む）である。この溝は何度も改修を受け、平城遷都当初の堆積は残存しない。溝最下層の年代は、瓦や木簡から奈良時代後半と考えられる。最下層は素掘りだが、後に小礫混茶灰褐粘質土や小礫混灰色粘質土を用いて溝幅を狭め、SX17640 以南では幅3.4 m、深さ0.8 m、同以北では幅約4 m、深さ約0.6 mの規模となる。原位置を保つ護岸石を東岸の一部で確認しており、両岸に石積護岸を施したと考えられる。

植物種実は砂礫層から多く出土している。メロン仲間種子が2342点と最も多く、トウガン種子57点、ウメ核27点（破片4点）、センダン核19点（破片1点）、ヤマモモ核14点と続く。このほか、カヤ種子、オニグルミ核、クリ果皮、ツブラジイ堅果、モモ核、スモモ類核、サクラ属サクラ節核、ナシ亜科種子、カキノキ種子、アラカシ堅果、コナラ属堅果、サンショウ種子などが出土している（第12表）。

SD17650 東面大垣を切り込むかたちとなって開渠で抜け、宮内基幹排水路 SD3410 から東一坊大路西側溝 SD4951 に注ぐ東西溝。水は西から東に流れる。南面大垣へ抜け、二条大路北側溝へ流れる SD3410 の水量軽減のための分水路と考えられ、3時期の変遷がある。SD17650A は当初の素掘り溝で、幅5.5 m、深さ1.5 m。堆積土から須恵器 B 蓋（平城宮 I）が出土した。17650A を埋め立て、幅を約2.9 mに狭めた溝が17650B で、築地横断部分の北岸で護岸石、南岸で護岸石採取痕を検出した。

植物種実は、木屑層と砂礫層で多く出土している。数量の多い砂礫層を見ると、メロン仲間種子477点、コナラ属堅果17点（破片51点）、モモ核12点（破片4点）、カキノキ種子9点（破片2点）、クリ果皮破片243点などと続く。このほか、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ハシバミ堅果、シイノキ属堅果、ウメ核、サクラ属サクラ節核、ナシ亜科果実、アケビ属種子、ナツメ核、マツ属複維管束亜属球果、トウガン種子、オナモミ果実

第 11 表 平城宮跡出土の植物種実（6）

分類群	部位	SD2700 (172次)										
		褐粗砂	青灰粗砂	暗青灰粗砂	黒褐土	黒粘土	灰白砂層	灰白バラス	暗灰白バラス	灰砂	木屑層	灰褐粗砂
木本												
カヤ	種子		1					3		6	7	3
ヤマモモ	核									4		4
オニグルミ	核	4	7	1		9	1	7 149	1	6 374	5 112	5 137
ヒメグルミ	核							28 26		67 105	20	15
ハシバミ	果実					1				1 10	5	1 6
クリ	果皮		15					5		12	22	9
ツブラジイ	堅果									1 1	2	
スダジイ	果実		1									
シイノキ属	堅果										1	1
アンズ	核							1				
ウメ	核	1	3	2	1	18 4		35 3		174 24	52 7	229 48
モモ	核	33 34	73 45	46 29	25 5	184 121	2 1	755 405	14 6	1139 757	466 286	2005 1185
スモモ類	核					4		5		21 1	8 2	25 9
サクラ節	核											2 1
ナシ亜科	種子							1			1	
ナシ亜科	果実									4	1	1
センダン	核	1				10 2		3		40 18	8	172 42
ムクロジ	種子										2	
アケビ属	種子							1				
ナツメ	核		5			1				10	2	7 1
グミ属	核											
アキグミ	種子										10	
アカマツ	球果							1				
マツ属複維管束亜属	球果		1			3		15		3	8 ○	6 ○
アラカシ	堅果			2				6		1	2 2	2 2
シラカシ	堅果									2		
コナラ属	堅果										1	
コナラ属	殻斗										1	
サンショウ	種子											
ツバキ	種子		1					1				
草本												
ナス属	種子						254				17 1	
メロン仲間	種子						636	4		15 12	466 29	1
スズメウリ	種子										1	
ヤナギタデ	果実						1					
ホタルイ属	果実						3					
カナムグラ	種子									1		
不明・同定不能										2	1	

分類群	部位	SD2700 (172次)								SD2700 (167次)	SD2700 (139次)			
		黄灰褐粘土	暗青灰粘土	暗灰粘土	瓦溜		暗渠等	東岸南北細溝		一括	灰砂	灰色粘土	暗褐土	暗褐バラス
木本														
オニグルミ	核			4	3	9	1	21	2	16			1	
ヒメグルミ	核				1		1	3		5				
ハシバミ	堅果									2				
クリ	果皮									10				
ウメ	核			1		1	72	26	15	5				
モモ	核	3	3	3	17	9	13	6	10	3	1048	431	133	101
スモモ類	核				1		8				3		1	2
センダン	核						18	3						
ナツメ	核									2				
マツ属複維管束亜属	球果				1		1							
草本														
メロン仲間	種子			2	1									

分類群	部位	SD2700 (139次)					
		灰砂	灰砂②	灰褐砂	暗灰粘土	木樋埋土	一括
木本							
チョウセンゴヨウ	種子	1	8		1		4
オニグルミ	核				3	1	
クリ	果皮	25			1		
ツブラジイ	果皮				1		
シイノキ属	堅果				1		
ウメ	核		2		2		
モモ	核	8 4	22 6	2 1	10 2	1	9 2
スモモ類	核				1 1		
サクラ属サクラ節	核				2		
キイチゴ属	核				3		
センダン	核		1		2		
ナツメ	核				2		
カキノキ	種子				6 3	1	
クワ属	核				1		
ムベ	種子		1				
サンショウ	種子				1	1 1	
サンショウ	内果皮		4				
ブドウ属	種子				1 1		1 1
ガマズミ属	核						
草本							
ヒエ属	有ふ果						
ナス属	種子		21 17		5 1	9 4	
メロン仲間	種子		552		3 2	1 1	
ウリ属	種子				1		
エゴマ	果実						
オオバコ属	種子					23	
タデ属	果実					9 28	
タデ科	果実		5		2		
カタバミ属	種子						1
ホタルイ属	果実				1	1	
キクマン属	種子		55				
タカサブロウ	果実						1 3
不明・同定不能			2		18 2		

第 12 表 平城宮跡出土の植物種実（7）

分類群	部位	SD3410		SD17650				
		砂礫層	砂礫層 橋付近	木屑層	砂礫層	黒灰土	灰褐色砂	しがらみ
木本								
カヤ	種子	1			3			
チョウセンゴヨウ	種子			1	1			
ヤマモモ	核	14						
オニグルミ	核	4		1	1			
ハシバミ	堅果				2			
クリ	果皮	17		46	243	4		30
ツブラジイ	堅果	5	14	8	9			3
スダジイ	果実		2	3				10
シイノキ属	堅果				3			
ウメ	核	25	3		1			
モモ	核	4	12		12			1
スモモ類	核	2	1					
サクラ節	核	2		1		4		
サクラ属	核			1	2			
ナシ亜科	種子	2	1	1	1			
センダン	核	15	1					
アケビ属	種子		4					
ナツメ	核		1	1	6		1	
カキノキ	核		1	4	7			1
マツ属複維管束亜属	種子	1	8	2	9	2		
アラカシ	球果			1	1			
コナラ属	堅果	1		3				
アカガシ亜属	堅果	2	4		17	51		
マメ科	殻斗	1						
サンショウ	種子				○			
草本								
ヒシ	果実		1					
トウガン	種子	56	1		1			
メロン仲間	種子	1008	1336	406	3	477	11	112
ヒョウタン仲間	種子		1		1			
ヒョウタン仲間	果皮		○			○		
オナモミ	果実				1			

などが出土している（第 12 表）。

（2）その他の溝

a. 第一次大極殿院周辺の溝

SD5575 第一次大極殿院東面回廊 SC5500 の東雨落溝。一部でしか痕跡をとどめていない。幅 65cm、深さ 20cm の素掘溝。若干の砂を混える黄褐色土が堆積している。奈良時代前半。

出土種実は、メロン仲間種子が 18 点（破片 3 点）あるほかは、クリ果皮やハシバミ堅果の破片資料である（第 13 表）。

SD5505 東から基幹排水路 SD3715 に注ぐ東西溝（幅 2 m、深さ 50cm）。水流の激しさを示すように合流点が著しく氾濫している。この溝の堆積土から平城宮Ⅲの土器が出土した。奈良時代前半から中ごろ。

出土種実は、クリ果皮とモモ核で、いずれも破片資料である（第 13 表）。

b. 朱雀門周辺

SD1900 朱雀門北南北道路 SF1950 西側溝。時期を違えて A・B が重なっている。A は幅 2.6 ～ 3.0m、深さ 0.6 ～ 0.8m の大規模な溝。砂あるいは砂質土が数層堆積し、調査地域のほぼ全域から多量の土器が出土した。この SD1900A は、朱雀門基壇築成時に断ち切られており、宮造営前の溝（下ツ道）である。造営後、SD1900B として再使用される。7 世紀後半から 8 世紀前半か。

植物種実として、メロン仲間種子が最も多く 65 点出土しており、次いでマツ属複維管束亜属球果 6 点、モモ核 5 点、スモモ類核 1 点と続く（第 13 表）。

c. 造酒司周辺

SD11600 宮内道路 SF11514 の南側溝。現状で約幅 5 m、検出面から深さ約 1 m という大規模な溝。北から SD16742、南から SD16741 が取りつく。埋土より木簡約 2500 点が出土した。木簡の年紀は、延暦元年（782）と 3 年（784）があり、長岡京遷都直前の年紀を示す。

植物種実は多数出土している。各層位のうち最も多く出土した木屑層（木簡含む）からは、メロン仲間種子が 208 点（破片 7 点）と最も多く、以下モモ核 34 点（破片 39 点）、ウメ核 13 点（破片 6 点）、センダン核 12 点、スモモ類核 7 点（破片 2 点）、サクラ属サクラ節 7 点、カキノキ種子 6 点（破片 4 点）と続く。このほか、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、ツブラジイ堅果、アンズ核、ナシ属果実、ナシ亜科種子、トウガン種子な

第 13 表 平城宮跡出土の植物種実 (8)

分類群	部位	第一次大極殿院周辺			造酒司東西道路周辺					朱雀門北 南北道路 西側溝 SD1900
		SD5575	SD5505	SD18220	SD11600				SD16742	
		3 砂	暗灰粘土	灰色砂	小礫混暗	暗灰粘	木屑層	灰褐粗砂	木屑層	
木本										
ヤマモモ	核								1	
オニグルミ	核			3	19	1	35	10	1	
ヒメグルミ	核						25			
ハシバミ	堅果	3	69	5				1		
クリ	果実	1					2			
クリ	果皮						147	11		
クリ	カッ						112	43		
ツブラジイ	堅果						2	1		
スダジイ	果実					2		1		
シイノキ属	堅果	17					1	8		
アズ	核						1	1		
ウメ	核					1	13	6	4	
モモ	核		1	1	1	2	34	39	11	17
スモモ類	核						7	2		
サクラ節	核					1	7			
ナシ属	果実						1			
ナシ亜科	種子						1			
ナシ亜科	果実			1	1		1			
センダン	核						12	11		
ナツメ	核						5			
カキノキ	種子						6	4	2	2
マツ属複雑管束亜属	球果									
マツ属複雑管束亜属	種子									1
コナラ属	堅果							5	1	6
アカガシ亜属	殻斗							1		
ブナ科	堅果							1		
クスノキ	種子						1	1		
サンショウ	種子					1				
草本										
トウガン	種子						2	1		
スイカ	種子									
メロン仲間	種子	18	3	28	2	2	208	7	19	2
ヒョウタン仲間	種子						1	1		9
ヒョウタン仲間	果皮							○	○	65
不明・同定不能							1	1		○

どが出土している (第 13 表)。

SD16742 宮内道路 SF11514 を横切る南北溝。幅約 3.5 ～ 4.5 m。SD16731 と SD16745 が取りつく。奈良時代。植物種実には、メロン仲間種子 9 点、ヤマモモ核 1 点、モモ核 1 点 (破片 4 点)、オニグルミ核破片がある (第 13 表)。

Ⅱ 平城京跡出土の植物種実

1. 平城京跡植物種実出土遺構の概要

ここで対象とするのは、平城宮を除く平城京跡で出土した資料である。平城宮跡と同様に、豊富な植物資料が得られている。特に、長屋王家木簡や二条大路木簡で著名な平城京左京二条二坊、三条二坊の各遺構出土資料や、西大寺食堂院の井戸出土資料、そして条坊側溝の出土資料は、奈良時代の植物利用の実態を知る良好な資料群である。ただし、その他の資料と同様に、ほとんどの場合細かい目の篩を用いた定量的な分析がおこなわれておらず、小型の種実については情報が欠落している資料も多い点に注意されたい。なお、調査対象遺構の位置は、第 6 図に示した。

2. 井戸・土坑

(1) 井戸

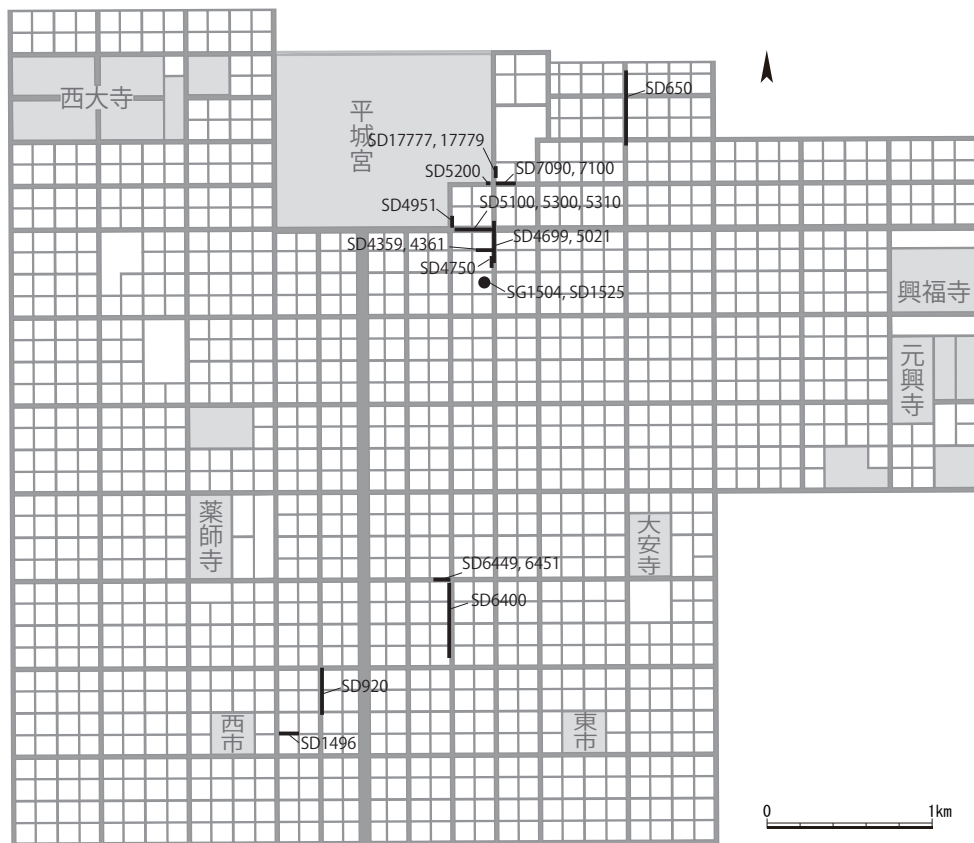
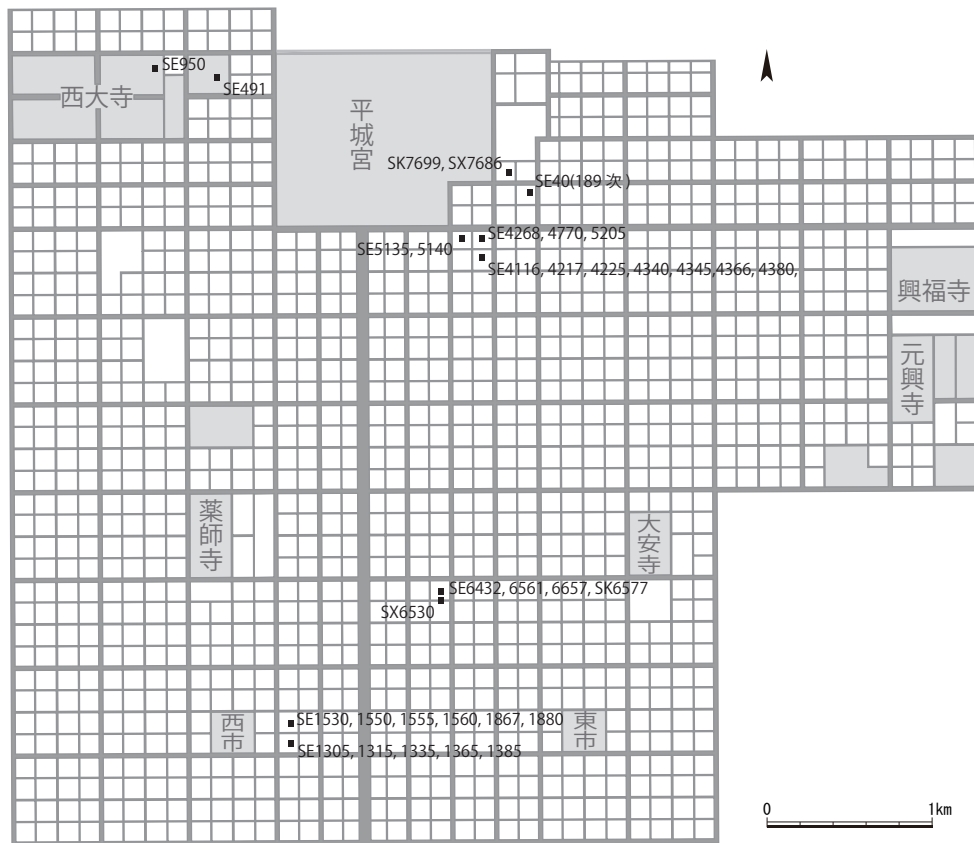
a. 左京二条二坊

189 次 SE40 十四坪。直径 2.4m、深さ 2.8 m の円形の掘方をもつ。井戸枠は円形縦板組で、縦板側面の上部と下部を太柄で固定している。掘方最上層はバラスと砂で固め、さらにその上は一辺 10 尺の正方形の瓦敷きである。井戸枠の埋土は、最下層に水の濾過用の木炭が厚さ 15cm 敷かれる。その中から地鎮具として使用された万年通寶とガラス玉が出土した。木炭層の直上には「酒」と墨書された奈良時代末期の土器が廃棄される。さらにその上には檜皮、斎串、木簡を含む木屑層と瓦層がある。

出土種実として、モモ核が 10 点 (破片 4 点)、ウメ核 1 点、破片資料としてオニグルミ核がある (第 14 表)。

b. 左京三条二坊

SE4116 七坪。敷地の東南隅にある井戸。SE4117 と重なり、これより新しい。掘方の径 2.5 m、深さ 2 m 程度で、井戸枠は縦板組である。四隅に角材を立てて、横棧を入れ、一辺に縦板 4 枚程度を立てている。埋土から平城宮Ⅲ～



第8図 平城京における報告対象遺構位置図（上：井戸・土坑 下：溝・溝状遺構）

第 14 表 平城京跡出土の植物種実（1）

分類群	部位	189次・SE40		SE4116	SE4217	SE4225	SE4268	SE4340			SE4365			SE4366		SE4380
		E層	F層	粹内埋土	粹内		下層	最下部	粹内埋土		抜取穴	粹内黒灰粘土	灰色粘土	抜取穴	暗灰粘土	粹内埋土
木本																
カヤ	種子				2											
オニグルミ	核			1	8	6			1			1			2	
ヒメグルミ	核															
クリ	堅果													5		
クリ	果皮				10		14			15						
ウメ	核	1	1		1				1			1				
モモ	核		10	4	45	42	1	1	16	1	1	1	1	1	4	1
センダン	核											2				
ナツメ	核				1											
マツ属複維管束亜属	球果				1	1										
アラカシ	果実				1											
草本																
ヒョウタン仲間	果皮				○											

分類群	部位	SE4770		SE5140		SE5135	SE5205
		暗灰粘土	黒灰砂	底	掘方	灰色砂	粹内埋土
木本							
カヤ	種子	6	4				
チョウセンゴヨウ	種子			1			
オニグルミ	核	2	18	44	8	1	24
ヒメグルミ	核		21	32		1	1
ハシバミ	堅果					1	
クリ	果皮		20	11		2	
クリ	カット					1	
モモ	核	112	22	126	26		
スモモ類	核	8		7		3	3
トチノキ	種子		1				
草本							
ヒョウタン仲間	果皮			○			

分類群	部位	SE930	SE1305	SE1315		SE1335	SE1365	SE1385			SE1530		SE1867	SE1880
		掘方	最下層	灰黒粘土	掘方	一括	掘方	最下層	灰黒粘土2	底さらい	暗灰粘土	底堆積土	3～4層後の間	黒灰砂
木本														
オニグルミ	核												1	
ハシバミ	堅果									1				
クリ	果皮			12				12						
アンズ	核													
ウメ	核										3	2	1	
モモ	核	1		1	1	1	1		2	2	97	83	22	4
スモモ類	核										4			
センダン	核										1			
草本														
オナモミ	果実										20	1		

分類群	部位	SE1550				一括	SE1555			SE1560	SE6432		SE6657	SE491
		1層	2層	3層	4層		灰黒粘土	下層砂	一括	暗灰砂	掘方	粹内		埋土
木本														
ヤマモモ	核												1	
オニグルミ	核							1		4			4	1
ヒメグルミ	核									1				
クリ	果皮									25			1	
アンズ	核					1								
ウメ	核	1		1		2							5	1
モモ	核	7	44	13	10				3	5	2	1	11	10
スモモ類	核	1		29	2	6	18	1	14	7	16	15	7	5
ナシ亜科	種子									2			15	
ナシ亜科	果実											1		
センダン	核					1				1			4	
ナツメ	核												2	
カキノキ	種子												1	2
マツ属複維管束亜属	球果													1
コナラ属	堅果												8	22
草本														
トウガン	種子											1	4	1
メロン仲間	種子													100<
オナモミ	果実													

Vの土器が出土している。奈良時代末まで存続する。

植物種実では、モモ核が最も多く 45 点（破片 42 点）、ナツメ核、マツ属複維管束亜属球果、アラカシ堅果が 1 点ずつ出土している。このほか破片だが、カヤ種子、オニグルミ核、クリ果皮、ウメ核も出土している（第 14 表）。

SE4217 七坪。西南寄りにある井戸。掘方は検出面で径 2 m のほぼ円形で、井戸枠は曲物を 2 段重ねている。曲物の径は下段が 65cm、上段が 73cm、両者の間に楔を入れて止めている。掘方から平城宮Ⅲ、井戸枠内埋土から平城 V の土器が出土している。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実はモモ核が 1 点（破片 1 点）のみである（第 14 表）。

SE4225 七坪。SB4221 のすぐ北にある井戸。掘方は径 1.2 m の円形、深さは 1.4 m。中に曲物を積んだ井戸枠

を置く。曲物は径 45cm と 50cm で、高さが 50cm 程度のを 2 段重ね、さらに上段の内部に一回り小さく高さ 30cm の曲物を 2 段積んでいる。埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代末に廃絶。

出土種実は、モモ核が 16 点（破片 1 点）のほか、破片資料としてオニグルミ核、クリ果皮がある（第 14 表）。

SE4268 八坪。SB4269 の西にある井戸。掘方の径 2.8 m、深さ 2.1 m。井籠組の井戸枠を組む。井戸枠は一辺 1.2 m、板の幅は 20 ～ 25cm、厚さは 3 cm 前後であり、8 段組み上げる。B 期（奈良時代前半）の SB4270 の柱掘方を切っている。掘方から平城宮Ⅲ～Ⅴ期の土器が、埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実はモモ核が 1 点（破片 1 点）のみである（第 14 表）。

SE4340 七坪。SB4400 の東にある井戸。掘方は検出面で径 1.5 m の円形、0.7 m から下は径 0.65 m で、全体の深さは 1.6 m ある。井戸枠は掘方の大きい上部では縦板組、下部は掘方にほぼ沿わせて、曲物を 4 段に積み上げている。掘方から平城宮Ⅲの可能性のある土器、埋土から平城宮Ⅳの土器や硯が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実として、井戸枠内埋土からモモ核 14 点（破片 5 点）、ウメ核 1 点のほか、破片資料として、クリ果皮、オニグルミ核がある。また井戸最下部から、モモ核 10 点（破片 2 点）が出土している（第 14 表）。

SE4365 七坪。SE4185 の東北にある井戸。掘方は径 1.9 m、深さ 1.8 m。井戸枠は一辺 70cm 程度の縦板組。四隅に角材を入れ、横棧で繋いで、縦板を打ち込む構造であるが、崩壊が著しい。掘方から斎串や小型素文鏡、平城Ⅲの土器、埋土から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代後半。

出土種実として、枠内埋土からモモ核 15 点（破片 6 点）、センダン核 2 点、ウメ核 1 点がある。また破片資料として、オニグルミ核が認められる。なお、抜取穴からもモモ核 1 点（破片 1 点）が出土している（第 14 表）。

SE4366 七坪。内郭東辺堀の東方にある井戸。掘方は底で約 1.5 m 角のほぼ正方形で、深さが 1.7 m。底面に礫を敷き、横板組の井戸枠を入れる。井戸枠は、長さ 110cm、幅 60cm、厚さ 4.5cm の板 4 枚を井籠組に組んで正方形にしたもの。井戸枠は最下段のみが残り、それより上は抜き取られている。抜取穴は東西 2.7 m、南北 3 m、深さ 1 m と、掘方よりも大きい。A 期。井戸枠の抜取穴から、平城宮Ⅱに属する猿の絵を描いた土師器が出土している。奈良時代前半。

植物種実には、暗灰粘土から出土したモモ核 4 点、ヒメグルミ核の破片がある。また抜取穴からモモ核 1 点、クリ果皮の破片が出土している（第 14 表）。

SE4380 七坪。SE4365 の北にある井戸。掘方は上部では、径 1.75 m の隅丸方形であるが、20 ～ 30cm の深さで井戸枠ぎりぎりの大きさに狭める。深さは 1.3 m ある。井戸枠は縦板組で四隅に角柱を打ち込み、横棧を 3 段入れ、棧の間隔より若干長い縦板 4 ～ 5 枚を棧の位置で重ねながら組み上げている。井戸埋土から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。掘方は SD4165 を切って掘り込んでいる。奈良時代後半。

植物種実として、井戸枠内埋土からモモ核が 1 点のみが出土している（第 14 表）。

SE4770 八坪。内郭の堀の東北隅から約 25 m 東北にある井戸。東西 2.2 m、南北 2 m の隅丸方形で、深さは 1.8 m。井戸枠は抜き取られて、層状に埋土が堆積している。その中ほどに木屑層があり、そこから「長屋皇宮」「若翁帳内」などと記した木簡 226 点が出土した。木簡の紀年より養老年元（717）をさほど降らぬ頃に廃絶したと考えられる。

出土種実は、周辺の他の井戸と比較して豊富である。埋土である暗灰粘土と黒灰砂の出土数量を合わせると、最も多く出土しているのはモモ核で 238 点（破片 48 点）、次いでスモモ類核 15 点となる。またオニグルミ核が 2 点（破片 62 点）、破片資料だが、カヤ種子、ヒメグルミ核、クリ果皮、トチノキ種子が出土している（第 14 表）。

SE5135 一坪。SB5050 の西南にある井戸。掘方は 1.9 m のほぼ円形で、深さ 1.9 m。中に縦板組の井戸枠を組む。井戸枠は一辺約 1.1 m で、四隅に角材を立て、横棧 2 段を入れて外に縦板を置く。掘方から平城宮Ⅲ新、埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実は、井戸底からモモ核 12 点（破片 8 点）のほか、破片資料としてチョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核がある。また、掘方からモモ核 4 点（破片 1 点）、クリ果皮が出土している（第 14 表）。

SE5140 一坪。SB5050 の西南にある井戸。掘方は径 1.9 m のほぼ円形で、深さ 1.9 m。中に縦板組の井戸枠を組む。井戸枠は一辺約 1.1 m で、四隅に角材を立て、横棧 2 段を入れて外に縦板を置く。掘方から平城宮Ⅲ新の、埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実には、いずれも破片だが、モモ核、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果がある（第 14 表）。

SE5205 八坪。東端にある井戸。掘方は径 2.5 m、深さ 2.2 m 縦板組の井戸枠をもつ。井戸枠は一辺 80cm、四隅に 10 ～ 15cm 角の角材を立て、60 ～ 75cm 間隔で横棧を入れた縦板 3 枚ずつを立てる。埋土から平城宮Ⅴの土器が

出土している。奈良時代末に廃絶。

出土遺物として、井戸枠内埋土からモモ核 3 点のほか、破片資料としてオニグルミ核、ヒメグルミ核がある（第 14 表）。

c. 左京七条一坊

SE6432 十六坪北東部の井戸。西側溝西岸の西 12.5 m、北築地雨落溝から 46.5 mにある。SB6536 から東へ 22 m、SD6430 の延長線から北へ 6 mに位置する。掘方は直径 4 m、深さ 1.6 mで、一辺 84cmの縦板組の井戸枠が残る。掘方から平城宮Ⅱ、枠内から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土。奈良時代前半につくられ、中ごろに廃絶。

井戸枠内埋土から、モモ核、ナシ亜科種子、トウガン種子が 1 点ずつ出土した。また、掘方からも、モモ核 48 点のほか、ウメ核とスモモ類核が 1 点ずつ出土している（第 14 表）。

SE6561 十六坪南西部の井戸。SA6541 から西へ 9 m、北小路北側溝から 16.5 mに位置する。掘方は南北 2.7 m、東西 3.0 m、残存深さ 2.0 mである。ヒノキの刳抜井戸枠が残り、直径 80cm、残存長 183cm、厚さ 3～4 cm。井戸底は自然木を含む灰色砂、裏込土は灰緑色粘混灰白色砂である。裏込から平城宮Ⅴ、井戸枠から平城宮Ⅴ～Ⅶの土器が出土した。奈良時代末に掘られ、平安時代初頭に廃絶。

植物種実として、枠内下層埋土から、ツバキ属種子 2 点（破片 1 点）とヤブツバキ幼果 1 点が出土した（第 14 表）。

SE6657 十六坪北西部の井戸。北面築地南雨落溝想定位置から 10 m、東小路東側溝から 18 mに位置する。SB6645 から北に 18.5 m（60 尺）離れる。掘方は東西 2.5 m、南北 2.4 m、残存深 2.7 mである。縦板、木箱、曲物を組み合わせた井戸枠が残る。最下部は底板を抜いた曲物で、径 55cm、高さ 42cm、厚さ 0.5cmである。この上に一辺 60cm、高さ 40cmの方形の木製枘を底板を抜いて載せている。最上部は平面が正方形の縦板組で一辺 65cm、残存高さ 1.6 m。井戸枠内埋土から平城宮Ⅳ～Ⅴの土器、井戸抜取穴から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代末に掘られ、平安時代初めに廃絶。

出土種実には、ナシ亜科種子 15 点、モモ核 11 点（破片 10 点）、スモモ類核 7 点（破片 5 点）、ウメ核 5 点（破片 1 点）、メロン仲間種子 4 点（破片 1 点）、センダン核 4 点のほか、ナツメ核、カキノキ種子、ヤマモモ核がある。また、破片資料として、オニグルミ核、クリ果皮、コナラ属堅果が出土した（第 14 表）。

d. 右京八条一坊

SE1305 十三坪の東南隅に位置する井戸。掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

埋土最下層から、クリ果皮（破片）が 12 点出土している（第 14 表）。

SE1315 十三坪の西南隅に位置する井戸。掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

埋土（灰黒粘土）および掘方から、モモ核が 1 点ずつ出土している（第 14 表）。

SE1335 十三坪の西辺南方に位置する井戸。掘方から平城宮Ⅱの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代前半に掘られ、奈良時代末に廃絶。

モモ核（破片）が 1 点出土している（第 14 表）。

SE1365 十三坪の中央南寄りに位置する井戸。井戸枠内から平城宮Ⅳ～Ⅴの土器が出土した。井戸屋形 SB1364 をもつ。奈良時代末に廃絶。

掘方からモモ核 1 点（破片 1 点）が出土している（第 14 表）。

SE1385 十三坪の中央西寄りに位置する。東西堀 SA1371 のすぐ北にあり、十三坪の西半を南北に二分する線上にある井戸。掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

埋土からモモ核 2 点（破片 2 点）、クリ果皮の破片が、井戸底からモモ核 1 点、ハシバミ核 1 点が出土している（第 14 表）。

SE1530 十四坪の東南隅に位置する井戸。SA1537 のすぐ北にあたる。敷地が 1/32 町とすると、宅地の東南隅に位置することになる。SE1530 はⅠ・Ⅱ期の築地の位置にあたり、築地が完全に崩壊し、代わりに SA1527 が建てられたときに掘られたと考えられる。井戸掘方から平城宮Ⅰ～Ⅱの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代前半に掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実には、埋土にモモ核 97 点（破片は 83 点）、オナモミ果実 20 点（破片 1 点）、スモモ類核 4 点、ウメ核 3 点（破片 2 点）、センダン核 1 点があり、井戸底の堆積土からは、モモ核 22 点（破片 4 点）、ウメ核 1 点が出土した（第 14 表）。

SE1550 十四坪の西南に位置する井戸。SA1548 のすぐ北にあたり、SA1548 より西の区画の東南隅に近い位置

にある。井戸枠内から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代末に廃絶。

埋土が1層から4層に分けられている。いずれの層からもモモ核が最も多く出土しており、3層では29点（破片2点）、4層からは6点（破片18点）が出土している。また、1・3層からはウメ核が1点ずつ、1層からはスモモ類核も1点出土している。このほか、一括資料だが、アンズ核、センダン核も出土している（第14表）。

SE1555 十四坪南区の東北に位置する井戸。SA1556のすぐ南にあたる。敷地が1/32町とすると、宅地の東南隅に位置することになる。井戸掘方から平城宮Ⅱの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代前半に掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実として、埋土からモモ核15点（破片7点）、オニグルミ核の破片が出土している。また一括資料にスモモ類核やウメ核の破片がある（第14表）。

SE1560 十四坪南区の東南隅に位置する井戸。敷地が1/16町とすると、宅地の東北隅にあたる。井戸掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実として最も多いのは、モモ核168点（破片76点）で、他を圧倒している。このほかウメ核5点（破片2点）、センダン核1点のほか、破片資料として、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮がある（第14表）。

SE1867 十四坪北区の中央に位置する井戸。井戸枠内から平城宮Ⅰ～Ⅲの土器。奈良時代中ごろに廃絶か。

植物種実として、井戸枠の横棧の間からモモ核12点（破片4点）とオニグルミ核の破片が出土している（第14表）。

SE1880 十四坪北区の中央西寄りに位置する井戸。まわりを大規模な土坑群に囲まれる。掘方が南のSE1870と重複するが、重複関係からSE1880のほうが新しい。掘方から平城宮Ⅰ～Ⅲの土器。奈良時代中ごろに廃絶か。

植物種実として、埋土からモモ核5点（破片6点）が出土している（第14表）。

f. 西隆寺の井戸

SE491 当初、横板の、いわゆる蒸籠組と呼ばれる構造の井戸（A）を、後に内側に縦板組を添え立てて改修している（B）。掘方は一辺3.6m前後の隅丸方形。深さは検出面から2.4mである。若干の木製品および延喜通寶の他に、埋土からは多量の土器が出土した。9世紀後半代の緑釉陶器片を含む。採取穴と井戸底の土器類はほぼ同時期のもので、延喜通寶の年代よりもさらに新しい。

植物種実として、埋土からメロン仲間種子が100点以上出土しているほか、ウメ核1点、マツ属複雑管束亜属1点（破片22点）、破片資料としてオニグルミ核、モモ核が出土している（第14表）。

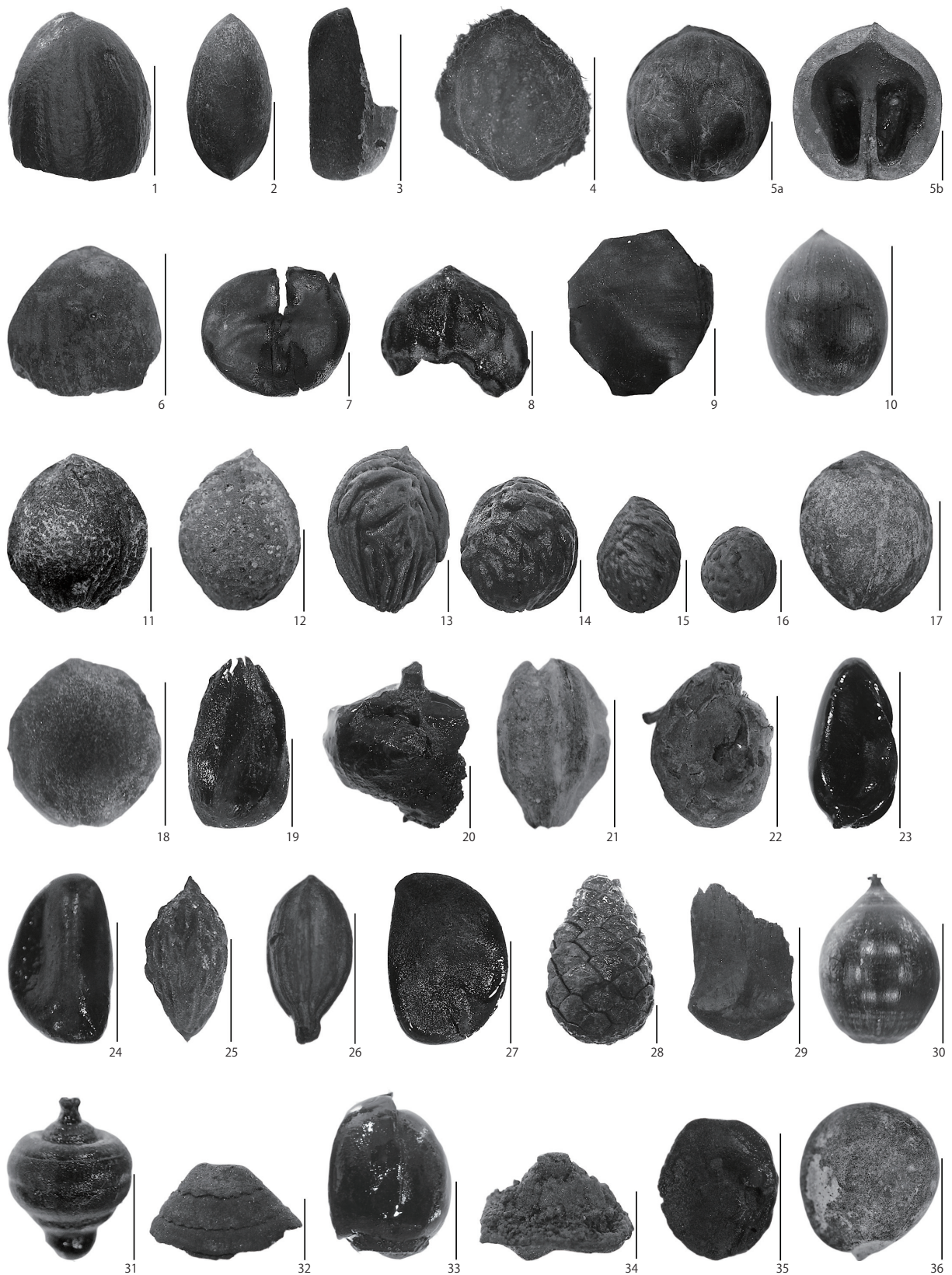
e. 西大寺食堂院の井戸

SE950 井籠組の井戸。井戸の平面は方形で、内法は一辺約2.3m。遺構検出面からの深さは約2.8m。井戸枠は横板材5段分が残存し、上部は抜き取られていたが、井戸の内部から井戸枠と見られる木材が出土しており、6段以上存在したとみられる。井戸底に浄水用として直径3cm前後の円礫を敷き詰め、その上に木炭を敷く。掘方は東西に長い楕円形で、大きさは南北約5.4m、東西約6.6mである。井戸本体は掘方西寄りに設置されており、底部は井戸枠が収まる程度の幅しかない。掘方の埋土は粘質土で、最上部は黄色土を層状に固め、丁寧に埋められている。井戸内の遺物は、上からaからeまでの5層に分けて取り上げたe層は灰色の粘質土で、瓦を含むが比較的遺物が少ない。D層は多量の遺物を含み、木屑層とともに互層をなす。木簡の大半はここから出土した。c、b、a層と徐々に埋土のしまりが良くなり、木質遺物の量が減り土器の割合が増える。以上より、井戸は、廃絶後食堂院で不要となったゴミを投棄することによって、上部まで埋まったとみられる。なお、a層上面には焼けた痕跡が認められた。またe層上面に井戸枠とみられる部材が落ち込んでいたことから、不要物の投棄が始まるころに井戸枠が抜き取られていたと考えられる。投棄の開始から終了までの時間は、bからd層まで珪藻類が検出されているため、数週間程度要したと考えられる。埋土の遺物は、奈良時代末を下限とし、最新の年紀である延暦11年（792）からほどなく、8世紀末に廃絶したと考えられる。

京内の井戸のうち、植物種実が最も豊富に得られた井戸である。回収された植物種実は83分類群、10万点以上におよぶ。種実写真は第9・10図に示した。井戸枠内埋土最下層のe層からは、メロン仲間種子が2982点（破片16点）と最も多く出土している。このほかトウガン種子が798点（破片13点）、モモ核129点（破片101点）、ネズミモチ核117点、ナシ亜科種子91点（破片19点）、カキノキ種子61点（破片96点）、ウメ核35点（破片60点）と続く。e層の上層、d層からは埋土中最多の種実が回収されている。最も多いのは、メロン仲間種子で77890点（破片26点）、次いでトウガン種子8027点（破片72点）、カキノキ種子1616点（破片918点）、モモ核1324点（破片833点）、ナツメ核814点（破片88点）、ナシ亜科種子588点（破片38点）と続く。このように他層と比べると桁違いに数が多い。このほか木本植物として、カヤ種子、イヌガヤ種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、ツブラジイ堅果、シイノキ属堅果、アンズ核、サクラ属サクラ節核、センダン核、アケビ

第 15 表 平城京跡出土の植物種実（2）

分類群	部位	井戸SE950 枠内									SE950	
		a	b	b②	c	d	e	レキ層	一括	掘方	撈乱	
木本												
カヤ	種子				1	26	1	16				
イヌガヤ	種子					1						
チョウセンゴヨウ	種子				1							
ヤマモモ	核		1 2	6	42	320	6	7	1	8 3	3	
オニグルミ	核	5	4 104	1 14	41	16	510	17	27	4 36	13	
ハシバミ	堅果					1						
クリ	炭化子葉		2									
クリ	六角皮			3	11	43	119	700<	13	21		
クリ	果皮	5	3 250<	200<	86	1900<	55	7800<	32	1200<	35 1 700<	
クリ	カット果皮									1		
ツブラジイ	堅果				2	11	17	18	2	4	4 1	
ツブラジイ	子葉						1					
シイノキ属	堅果			1	6	150	280	743	5	67	2 3 19	
アンズ	核	1			1		26	4		3	1 6	
アンズ	幼果						1				1	
ウメ	核		5 2	2 1	17	13	166	104	35	60	1 24 13	
モモ	核	9 16	43 69	10 25	92	128	1324	833	129	101	6 4 72 41	
スモモ類	核		2	2	11	2	285	15	18	27	9	
サクラ節	核		1			4	4	4	4	2		
サクラ属	核						157	1	5	1	1	
ナシ亜科	種子				34	9	586	38	91	19	42 13	
ナシ亜科	果実					2	3	5	1	2	1	
センダン	核		3		2	6	5	6	8	1	1	
ムクロジ	果実							1				
アケビ属	種子						83	3				
ムベ	種子				18	2	59	9	2			
ミツバアケビ	種子											
ナツメ	核		3	15	56	5	814	88	29	5	36 6	
ナツメ	幼果							1			16 1	
グミ属	核				2							
グミ属	種子						11	1	1			
アキグミ	種子						7					
ツルグミ	種子						1					
カキノキ	種子		10	1 1	106	87	1616	918	61	96	112 20	
カキノキ属	種子		2	1 1			4				1 11 5	
カキノキ属	果実											
マツ属複雑管束亜属	球果				2		7	3	1		1 2	
マツ属複雑管束亜属	種鱗						6	8				
アラカシ	堅果						4	2	1	8		
シラカシ	堅果						13	13	2	1	1 1	
アカガシ	殻斗											
ナラガシワ	堅果								2	2		
コナラ属	堅果			1			1	2	1			
コナラ属	炭化子葉							6	1			
コナラ属	幼果						1					
コナラ属	殻斗				1		20	2	3		1	
アカガシ亜属	幼果							1				
アカガシ亜属	堅果						10	12	1	4		
ムクノキ	核		1		1		8		1	5	2	
コブシ	種子											
クスノキ	種子						2		8		1 1	
フジ属	果実						381					
マメ科	種子						19	4				
サンショウ	種子			3	41		184	5	15		10	
ノブドウ	種子				6		1					
ブドウ属	種子				13		17		5		1	
ツバキ	種子						1					
ツバキ属	果実							1			2	
エゴノキ	核										2	
エゴノキ	種子							2	3	1	1	
クマノミズキ	核				1							
クサギ	種子						1		2	2		
クサギ	核							1			1 1	
ガマズミ属	核				1		9					
ネズミモチ	核							117		1		
草本												
イネ	穀殻						2					
イネ	炭化種子				1							
オオムギ	炭化種子			1	2	1						
コムギ	炭化種子			1	3		2					
ヒシ	果実							10				
ナス属	種子		1		192		473	1	2	20	3	
トウガン	種子	101 18	911	29	618	42	8027	72	798	13	4 1 652 3	
メロン仲間	種子	14	349	262	4576	44	77892	26	2982	16	4 2 5966 13	
スイカ	種子										1	
ウリ属	種子						2					
ヒョウタン仲間	種子			2	2	1	265	8	21	5	○	
ヒョウタン仲間	果皮							○		○		
ゴキツル	種子						1					



スケール 10mm : 1-3,5-17,20-23,25-30,33,35 5mm : 4,8,19,24,31-33,34,36

1. カヤ種子、2. イヌガヤ種子、3. チョウセンゴヨウ種子、4. ヤマモモ核、5. オニグルミ核、6. ハシバミ堅果、7. クリ果実、8. クリ炭化子葉、9. クリ果皮（六角加工）10. ツブラジイ堅果、11. アンズ核、12. ウメ核、13-16. モモ核、17. スモモ核、18. サクラ属、19. ナシ亜科種子、20. ナシ亜科果実、21. センダン核、22. ムクロジ核、23. ムベ種子、24. アケビ種子、25. ナツメ核、26. グミ属種子、27. カキノキ種子、28. マツ属球果、29. マツ属種鱗、30. アカガシ亜属堅果、31. アカガシ亜属幼果、32. アカガシ亜属殻斗、33. コナラ属堅果、34. コナラ属殻斗、35. コナラ属炭化子葉、36. ムクノキ核

第9図 西大寺食堂院井戸 SE950 から出土した大型植物遺体（1）



スケール 10mm : 40,45,55,57,59,66,72 5mm : 37,47,49,51,53,54,58,60-65,69 1mm : 38,39,41-44,46,48,50,52,56,67,68,70,71

37. コブシ種子、38. クスノキ種子、39. エンドウ属炭化種子、40. マメ科果皮、41. サンショウ種子、42. アカメガシワ種子、43. ブドウ属種子、44. ノブドウ種子、45. ツバキ属果皮、46. クマノミズキ核、47. エゴノキ種子、48. クサギ核、49. ガマズミ属核、50. モチノキ属果実、51. イネ穎果、52. イネ炭化種子、53. オオムギ炭化種子、54. コムギ炭化種子、55. ヒシ果実、56. ナス属種子、57. トウガン種子、58. スイカ種子、59. ヒョウタン種子、60. メロン仲間種子（モルディカ型）、61. メロン仲間種子（マクワ・シロウリ型）、62. ウリ属種子、63. ゴキズル種子、64. アズキ亜属炭化種子、65. ダイズ属炭化種子、66. オナモミ果実、67. アサ核、68. ミクリ属核、69. ソバ果実、70. カナムグラ種子、71. コウホネ種子、72. トウゴマ種子

第 10 図 西大寺食堂院井戸 SE950 から出土した大型植物遺体（2）

第 16 表 平城京跡出土の植物種実（3）

分類群	部位	井戸SE950 枠内								SE950	
		a	b	b②	c	d	e	レキ層	一括	掘方	攪乱
アズキ	種子				1	2					
アズキ亜属	炭化種子				2	4	2		2		1
ヤブツルアズキ	種子					2					
ダイズ属	炭化種子			1		1	1				
エンドウ属	炭化種子					1					
トウゴマ	種子				1						
ソバ	種子				7	4					
タデ科	果実				1						
コウホネ	種子				1	11					
オナモミ	果実		2	5	2	28	3		1		1
アサ	核			3	2	2	1				
カナムグラ	種子	1	14				2				
マツモ	種子					33					
不明・同定不能			1	4	15	125	78	15	7	5	16
				4	13				14		1

属種子、ムベ種子、グミ属種子、アキグミ種子、コブシ種子、マメ科種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、ガマズミ属種子など、草本植物としてイネ籾殻、コムギ炭化種子、ナス属種子、ヒョウタン仲間種子、アズキ種子、ササゲ属アズキ亜属種子、ダイズ属炭化種子、エンドウ属炭化種子、コウホネ種子、ソバ種子、オナモミ果実などが出土している。c 層から上層は、出土種実の数が比較的少なくなるが、c 層ではメロン仲間種子が 4576 点（破片 44 点）と依然多い。また c 層では、他層ではほとんど認められないチョウセンゴヨウ種子やノブドウ種子、オオムギ炭化種子、トウゴマ種子、アサ核が少量であるが認められる。また一括資料ではあるものの、スイカ種子も出土している。このように枠内埋土からは多種多様な植物種実が出土しているが、掘方からは、エゴノキ核が 2 点、モモ核とメロン仲間種子の破片が出土しているのみである（第 15・16 表）。

（2）土坑

a. 阿弥陀浄土院（左京二条二坊十坪）

SK7699 埋土中に夥しい量の檜皮つまる檜皮土坑。奈良時代。

出土種実には、ヤマモモ核、スモモ類核、マツ属複維管束亜属球果、コナラ属堅果、クスノキ種子、ガマズミ属種子がそれぞれ 1 点ずつあり、破片資料としてハシバミ堅果がある（第 17 表）。

SX7686 埋甕遺構。地山を掘り込んで須恵器の大甕を埋めたもので、下半部のみが残存。調査区内にかかるのは北半部のみ。甕の径は約 1.0 m で据付掘方の径は約 1.2 m。層序から池 SG7700 と並存すると考えられる。奈良時代後半か。

植物種実は上下層で区別されて回収されている。上層からは、ナス属種子 61 点、ミクリ属核 36 点、マツ属種子 14 点、カヤツリグサ属 14 点、メロン仲間種子 12 点（破片 6 点）、ウメ核 3 点（破片 4 点）、センダン核 2 点（破片 2 点）、アカメガシワ果実 2 点（破片 1 点）、グミ属種子 1 点（破片 2 点）などが出土している。このほか他の遺跡には認められない、カワラスガナ果実、ヒメクグ果実、ハリイ属果実などの草本類が出土している。下層からは、タデ科果実 226 点（破片 5 点）、メロン仲間種子 65 点（破片 30 点）のほか、ナツメ核 9 点、ナシ亜科種子 6 点（破片 5 点）、グミ属種子 3 点（破片 1 点）、サンショウ種子 2 点などが出土している（第 17 表）。

第 17 表 平城京跡出土の植物種実（4）

分類群	部位	檜皮土坑 SK7699	埋甕遺構SX7686		SX6530	SK6577
			上層	下層	祭祀土坑	
木本						
ヤマモモ	核	1		1		2
ハシバミ	堅果	1				
クリ	果皮			4		
ウメ	核		3	4		
スモモ類	核	1			1	
ナシ亜科	種子			6	5	
センダン	核		2	2		
ナツメ	核			9		
カキノキ属	種子			1		
グミ属	種子		1	2	3	
マツ属複維管束亜属	球果	1	2	3	1	
マツ属	種子		14			
イチイガシ	幼果		1			
コナラ属	堅果	1				
アカガシ亜属	堅果				1	
クスノキ	種子	1				
サンショウ	種子			2		
ガマズミ属	核	1				
バラ属	核			1		
アカメガシワ	果実		2	1		
カエデ属	種子		1			
草本						
ヒエ	有ふ果			1		2
スズメノヒエ	有ふ果		3			
ヒシ	果実			1		
ナス属	種子		61			
メロン仲間	種子		12	6	65	
シソ属	果実		3		30	
ヤナギタデ	果実		2			
イヌタデ	果実			2		
ギンギン属	果実			1	6	
タデ科	果実			226	5	
コウホネ	種子		3			
キケマン属	種子		1			
アリノトウグサ	種子		1			
カヤツリグサ属	果実		14			
カワラスガナ	果実		2			
ヒメクグ	果実		1			
ハリイ属	果実		1	1		
キンボウゲ属	果実		1	1		
エノキグサ属	種子		7			
ヒルムシロ属	核		9	2		
ミクリ属	核		36			
マツモ	種子			3		
不明・同定不能		2	○ ○	○ ○		

b. 左京七条一坊

SX6530 七条々間北小路南側溝 SD6471 の溝底で検出した祭祀土坑。小路の交差点から東に 10～16 m にあり、東西 6.2 m、側溝の底から 50cm 掘り込む。西端から 2 m 付近に馬上顎骨 2 点、下顎骨 1 点、脚部骨、3.2 m 付近に土師器甕、1.4 m 付近に人面墨書土器 1 点、馬上顎骨 1 点、4.8 m 付近に須恵器壺、坏などが出土した。土器は平城宮Ⅱに属す。奈良時代前半。

出土種実には、メロン仲間種子の破片 2 点がある（第 17 表）。

SK6577 十六坪南西部の不整形土坑。坪東西二等分線の西 24～30 m、北小路北側溝から 18 m に位置する。南北 4.5 m、東西 6.4 m で、出土土器は平城宮Ⅲ新～Ⅳ。奈良時代後半。

出土種実には、モモ核の破片 2 点がある（第 17 表）。

3. 溝状遺構・条坊側溝

(1) 溝状遺構

a. 左京三条二坊

SD4750 左京三条二坊敷地内の中ほど、東辺築地際にある南北に延びる溝状遺構。長さ 23 m、幅 3 m、深さ 0.6 m 前後で、水が流れた痕跡はなく、塵芥を捨てた土坑と見られる。溝埋土は大きく 4 層に分かれる。下半部には多量の木簡を含んだ層があり、「長屋王家木簡」と称している 35,000 点にのぼる木簡が出土した。この木簡の年紀は和銅 4 年（711）から霊龜 2 年（716）の間に収まり、霊龜 2 年をさほど下らぬ頃に投棄され、埋められたと考えられる。

出土種実は木屑層から多量に出土した。最も多いのはモモ核 2350 点（破片は 1046 点）で、他を圧倒する。次いで、オニグルミ核 74 点（破片は 8180 点）、スモモ類 34 点（破片 5 点）、ナツメ核 26 点（破片 1 点）、メロン仲間 22 点（破片 4 点）と続く。このほかにも、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、ウメ核、サクラ属サクラ節、アラカシ堅果、シラカシ堅果、トウガン種子などがみられる（第 19 表）。

b. 左京二条大路濠状遺構

SD5100・SD5300・5310 二条大路南北濠状遺構。SD5100 は、二条大路路面上に南側溝に接して掘られた素掘溝。断面逆台形で幅 2.6～3.5 m、深さ 0.9～1.2 m であり、東二坊々間路西側溝西肩の西 1.2 m のところから始まり、西に一坪分 120 m 延びる。SD5300・5310 は二条大路路面上に北側溝に接して掘られた素掘溝。断面逆台形で幅 2.0～2.7 m、深さ 1.0～1.3 m であり、SD5300 の東端は東二坊々間路西側溝西肩の西 0.8 m のところから始まり、西に 56 m つづき二条二坊五坪南門の手前 5 m で終わる。SD5310 は同じ南門の西 4 m から再び始まる。堆積は両者とも 4 層に分かれる。SD5100 の土層は、上から暗灰褐色砂質土層、炭層、木屑層、暗灰色粘土（黒色砂）層、SD5300 の土層は、上から黄褐色粘土混暗灰色粘質土層、炭・砂混暗灰色粘質土層（炭層）、木屑層、黄褐色砂質土混青灰色シルト土層である。最上層は人為的な埋立土であり、土器や瓦を含むが、下 3 層とりわけ木屑層からは大量の木簡、土器、瓦、木製品等が出土した。下 3 層の年代は恭仁宮遷都（740）以前に限定される期間になる。

平城宮・京内で、多くの植物種実資料がある遺構群である。その中でも SD5100 木屑層からは、非常に多くの種実が出土している（巻頭図版 2～4）。この中で最も多いのは、メロン仲間種子で、40,000 点以上（実数は報告済みのため計数行わず）、以下モモ核 3511 点（破片 2650 点）、ウメ核 2278 点（557 点）、ナツメ核 2047 点（破片 83 点）、ヤマモモ核 869 点（破片 99 点）、スモモ類核 673 点（破片 61 点）、ハシバミ堅果 437 点（破片 1628 点）、クリ果皮 420 点（破片 8500 点以上）、マツ属複雑管束亜属球果 318 点（破片 500 点以上）、トウガン種子 303 点（破片 3 点）、カキノキ種子 302 点（破片 704 点）と続く。文字通り、他の遺構とは桁違いの量である。このほかに木本類として、カヤ種子、イヌガヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ヒメグルミ核、アンズ核、ナシ亜科種子、ナシ亜科果実、センダン核、ムクロジ種子、アケビ属種子、グミ属種子、イチイガシ堅果、アラカシ堅果、シラカシ堅果、アカガシ亜属堅果、ムクノキ核、サンショウ種子、ブドウ属種子、ツバキ属種子、エゴノキ核、クサギ核など、草本類として、イネ穎、コムギ炭化種子、オオムギ炭化種子、ヒシ果実、ナス属種子、キカラスウリ種子、ミクリ属核、ヤナギタデ果実、ハコベ属種子、オニバス種子などが出土している（第 18・19 表）。

SD5300 木屑層からも、SD5100 ほどではないが豊富な植物種実が得られている。最も多いのはモモ核で 2911 点（破片 1092 点）、次いでメロン仲間種子 639 点（破片 4 点）、コナラ属堅果 220 点（破片 314 点）、マツ属複雑管束亜属種鱗 145 点（破片 400 点以上）、オニグルミ核 130 点（破片 2393 点）、ナツメ核 124 点（破片 4 点）、クリ果皮 114 点（破片 4600 点以上）など続く。数量構成は SD5100 と若干異なるが、このほかの種実構成については類似している（第 18・19 表）。

なお、第 18・19 表の右端には、報告書（奈文研 1995）で示した数量を示している。概ね同様の結果が得られて

第 18 表 平城京出土の植物種実（5）

分類群	部位	SD5100							SD5300		SD5310		SD5100 学報数値	SD5300・ 5310 学報数値
		木屑層	炭層下 木屑層	炭層	炭層木屑 層	黒灰粘土	黒灰褐砂	灰粘土	木屑層	木屑層	木屑層	木屑層		
木本														
カヤ	種子	23	335		2		3		12	215	10	12	355.0	230.5
イヌガヤ	種子	1											2.0	2.0
チョウセンゴヨウ	種子	42	366			1	2		12	16			225.5	19.0
ヤマモモ	核	869	99					1	2				1109.5	2.0
オニグルミ	核	27	5694	1	7	19	2	16	1	64	2	11	2380.5	1310.5
ヒメグルミ	核	17	846		1		6		1	76		6	385.0	39.5
ハシバミ	果実				1	2							1197.0	161.5
ハシバミ	堅果	437	1628		4	1	4	7		2	55	204	2	16
クリ	果実	3	8											
クリ	炭化果実	15			2				1					
クリ	炭化子葉	18	3						13	804	1	4	15.0	1.0
クリ	六角皮	12	533				6		5	628		60	663.5	535.0
クリ	六角残り											6	577.0	373.0
クリ	果皮	420	8500<	16	82	1	280		70	114	4600<	2	300<	
クリ	カット果皮	2	350<				12		4	3	326			
ツブラジイ	果皮	1												
ツブラジイ	堅果	76	50						37	31				
ツブラジイ	炭化堅果		1											
スダジイ	果実	6							5				10.0	4.0
シイノキ属	堅果	345	41			5			9	12				
シイノキ属	炭化果実		5											
アンズ	核	16	37						2				30.0	2.0
ウメ	核	2278	557		15	3	10		87	19	5	2	2637.5	83.5
モモ	核	3511	2650	3	1	15	15	4	85	43	13	2	4868.5	3536.0
スモモ類	核	673	61		2	1	2	2	56	7	2		733.0	81.0
スモモ類	炭化核	1												
サクラ節	核	53	9				1						63.0	0.0
サクラ属	核	101	9			1			2	1			112.5	15.0
ナシ属	果実			1									221.0	199.0
ナシ亜科	種子	28	21						56	12				
ナシ亜科	果実	73	105				2	3	12	15	58	15		
ナシ亜科	幼果								81					
ヘビイチゴ属	核								1					
バラ科	種子	44	10				1							
センダン	核	15	1						1				54.5	0.0
ムクロジ	種子	21	12						1				34.0	1.0
アケビ属		2					1							
ムベ	種子										2			
ナツメ	核	2047	83	1	3	38	1	1	124	4	13		2234.0	123.5
グミ属	種子	3	8											
カキノキ	種子	302	704				3	8	81	300<	4	26	0.0	0.0
カキノキ属	炭化種子		1											
マツ属複維管束亜属	球果	318	500<			1			145	400<	19	100<	100.5	115.0
マツ属複維管束亜属	種鱗	4							3	36	68	24	77.0	135.0
ヒノキ	球果	10											12.0	0.0
イチイガシ	堅果	6							2					
アラカシ	堅果	14	5						1		2			
シラカシ	堅果	1												
クスギorアベマキ	殻斗	1											4.0	0.0
コナラ属	堅果	45				1			220	317	11	21	3.0	0.0
コナラ属	炭化子葉	1	1											
コナラ属	幼果	1												
コナラ属	殻斗	22	11				1		5	3				
コナラ亜属	堅果								1	8				
コナラ亜属	殻斗								10	1			3.0	12.0
アカガシ亜属	幼果	1							1				2.0	1.0
アカガシ亜属	堅果	3												
アカガシ亜属	殻斗	56	12			2	1		7	3	1		72.0	10.0
アカガシ亜属	殻斗+幼果	1												
エノキ	核		1										4.0	0.0
ムクノキ	核	3	7						1				7.0	1.0
コブシ	種子	21												
クスノキ	種子	3											5.0	0.0
サンショウ	種子	26							1				27.0	2.0
アカメガシワ	種子	1											1.0	0.0
ブドウ属	種子	2											4.0	0.0
ツバキ属	種子	10	4			1				1				
ミズキ	核	1											1.0	0.0
エゴノキ	核	54	1			2			1					
エゴノキ	種子	1				1							70.0	9.0
クサギ	核	2												
ガマズミ属	核	1											4.0	0.0
イタヤカエデ	果実	1												
草本														
イネ	籾殻	2							1	1				
オオムギ	炭化種子	1												
コムギ	炭化種子	2												
ハトムギorジュズダマ						1							2.0	0.0
ハス	果実	1											5.0	0.0
ヒシ	果実	4	103				4			3			104.5	3.0

第 19 表 平城京出土の植物種実（6）

分類群	部位	SD5100							SD5300	SD5310	SD5100 学報数値	SD5300・ 5310 学報数値		
		木屑層	炭層下 木屑層	炭層	炭層木屑 層	黒灰粘土	黒灰褐砂	灰粘土	木屑層	木屑層				
ナス属	種子	107							100<					
トウガン	種子	303	3			2		1	44	1	2	316.5	37.0	
メロン仲間	種子	40000<	1	700<		17+α		○	639	4	5	2	48652.0	904.0
キカラスウリ	種子	1												
ウリ属	種子	1												
ヒョウタン仲間	果皮		○	○		○		○		○		○		
ゴキヅル	種子								1					
ウリ科	種子	9	1											
ミクリ属	核	17	5										126.0	0.0
ヤナギタデ	果実	28											26.0	0.0
サナエタデ	果実								2				0.0	2.0
ハコベ属	種子	15	6										2.0	0.0
オニバス	種子	16	5						1	1				
キケマン属	種子	7												
タカサプロウ	果実	2				○							78.0	0.0
オナモミ	果実	2							1				0.0	1.0
スミレ属	種子								4					
不明・同定不能		29	54						6					

分類群	部位	長屋王邸東辺築地際南北 SD4750		SD4750 学報数値
		木屑層	一括	
木本				
カヤ	種子	7	16	19.0
チョウセンゴヨウ	種子	1	117	47.0
オニグルミ	核	74	8180	3413.0
ヒメグルミ	核	1	295	382.5
ハシバミ	堅果	3	4	
クリ	六角皮		22	14.0
クリ	果皮	6	1000<	4
クリ	カット		121	
ツブラジイ	殻斗	1		
ウメ	核	6	1	5.5
モモ	核	2350	1046	3032.5
スモモ類	核	34	5	25.0
サクラ節	核			
サクラ属	核	5	1	2.5
バラ科ナシ亜科	果実		1	
ナツメ	核	26	1	26.0
カキノキ	種子		2	
アラカシ	堅果	9		
シラカシ	果実	1		1.0
コナラ属	堅果	5		
コナラ属	殻斗	1	5	
コナラ亜属	殻斗	2		2.0
草本				
ヒシ	果実		13	11.0
トウガン	種子	8	13	14.0
メロン仲間	種子	22	4	11.0
ヒョウタン仲間	果皮		○	
不明・同定不能		3		

いるが、若干数値に違いがあるため併記しておく。

（2）条坊側溝・堀河

a. 左京二条

SD4951 東一坊大路西側溝。小子部門西脇を経て宮内から流出した排水路で、東一坊大路西側溝と宮東面外堀とを兼ねた南北溝である。幅約 6.2 m（最大約 7.5 m）、深さ 0.8 ～ 1.4 m。護岸は検出しなかったが、護岸施設の裏込めのための掘り込みと思われる幅数 10cm のテラス状の段を検出した。堆積は大きく上下でわかれる。上層は茶灰砂質土・暗茶灰砂質土で、平安時代以降の堆積。奈良時代の堆積土である下層は、幅約 4 m、深さ 0.5 ～ 0.8 m。溝は何度も改修を受けており、遷都当初の堆積は残存しない。改修時期は出土木簡から天平中頃以降、天平宝字年間までと考えられる。堆積土は、下から木屑混暗褐粘土、バラス混暗灰砂質土・灰褐粗砂、灰白ブロック混暗灰砂質粘土、灰白ブロック混暗灰砂質土の 4 層に大別できる。このうちバラス混暗灰砂質土以下において、大量の遺物が出土した。

この条坊側溝からは、二度の調査で植物種実が出土して

おり、とくに 274 次調査の部分での木屑層（下層堆積土）から多量に回収されている。最も多いのは、メロン仲間種子で 6090 点（破片 3 点）、次いでモモ核 75 点（破片 95 点）、カキノキ種子 66 点（破片 55 点）、ナツメ核 31 点（破片 1 点）、ウメ核 28 点（破片 18 点）、アケビ属種子 24 点（破片 2 点）と続く。このほか、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、アンズ核、スモモ類核、ナシ亜科種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、エゴノキ核、トウガン種子、ゴキヅル種子などが出土している。他の層位でもこの出土傾向は概ね一致しており、メロン仲間種子の量が多い。特に 283-3 次調査の木屑混暗灰粘土層では、8570 点（破片 287 点）という多量のメロン仲間種子が出土している（第 20 表）。

SD17777 改作前の東二坊々間路東側溝。幅 1.1 m、深さ 0.3 m。黒灰粘土が堆積している。奈良時代前半か。

出土種実に、オニグルミ核の破片がある（第 20 表）。

SD17779 改作後の東二坊々間路東側溝。西肩のみを検出。この溝から天平神護 2 年の木簡が出土している。奈良時代後半か。

出土種実に、モモ核 1 点（破片 2 点）および、オニグルミ核の破片がある（第 20 表）。

SD7090 二条条間路北側溝。長さ約 110 m にわたり検出した。奈良時代中ごろに大幅な改修があり、改修前を SD7090A、改修後を SD7090B とする。SD7090A は、幅約 3.8 m で、開削当初は西から東に向かって水が流れていたと考えられる。溝の断面形状は東側で逆三角形を呈し、西に向かって逆台形へと変化する。これは、地山が東側の

第 20 表 平城京出土の植物種実（7）

分類群	部位	東一坊大路西側溝 SD4951									東二坊坊間路東側溝	
		274次						283.03次			SD17777	SD17779
		黒褐粘土	黒灰粘土	灰褐砂	木屑層	排水溝	一括	木屑混黒灰粘土	砂礫層	一括	一括	暗灰砂
木本												
カヤ	種子	1		1	6							
イヌガヤ	種子								2			
チョウセンゴヨウ	種子				1 16		1			1		
ヤマモモ	核				16 3	1 1		4		3		
オニグルミ	核	8	2	10	121	3	3	1 41	19	9	2	3
ヒメグルミ	核											
ハシバミ	堅果			1	100	3	1 1					
クリ	果実											
クリ	果皮	7	6	38	488	5	41	30	28	5		
クリ	カット											
ツブラジイ	堅果			1	14 41	1 3						
スダジイ	果実				23							
シイノキ属	堅果							2				
アンズ	核				3							
ウメ	核	4		1 1	28 18	1	3 1	1 5	8 2	1		
モモ	核	9 7		1 4	75 95	3 2	4 5	10 15	13 36	1		1 2
スモモ類	核				12 2			1 1	1 1			
サクラ属サクラ節	核				4			3	1			
ナシ亜科	種子			1	14 1		1	3				
ナシ亜科	果実											
センダン	核	2		1	6 1			6 2	11 2	2		
アケビ属		5			24 2	1	2	1				
ナツメ	核			11	31 1			1	1	1		
カキノキ	種子	3		3 3	66 55	1	1 3	4	4			
マツ属複維管束亜属	球果				3				1			
アラカシ	堅果	1			27		3					
コナラ属	堅果	1			1		1	1 4	1			
アカガシ亜属	殻斗				1							
アカガシ亜属	堅果											
クスノキ	種子				1							
サンショウ	種子				4		1					
ブドウ属	種子				5	1		7		1		
エゴノキ	核				2	1						
ハクウンボク	核							1				
モチノキ属	核									1		
カエデ属	種子				1							
草本												
トウガン	種子			1	2			17	2	5 1		
メロン仲間	種子	164	2	216	6090 3	307	130	8570 287	876	653 44		
ウリ属	種子				1							
ヒョウタン仲間	種子				1				1			
ヒョウタン仲間	果皮			○	○			○				○
ゴキツル	種子				1							
トウダイグサ属	種子				1							
オナモミ	果実						1					
不明・同定不能					2							

灰白色粘土から調査区中央部より西にかけて砂に変化することが関係していると思われる。灰～灰褐色の砂が堆積し、最下層は植物遺存体を多量に含む灰茶色粘土である。SD7090B は幅約 2.0 m で、改修前よりも細く、浅い。調査区西側では両岸に堰板（SX7093・7094）とこれを固定する丸木の杭列（SX7091・7092）が存在し、溝岸の崩落を防ぐものと考えられる。堆積は暗褐色粘質土が中心で、澱んでいた有様がうかがえる。粘質土の堆積を参考にすると、東から西への流れが想定でき、当初の流水方向が逆転している。これは門 SB7110 の建設による変更であろう。門の基壇は下層溝を埋め立てた上に構築されており、下層溝から上層溝への改修は、門の造営に合わせて行われたと考えられる。

植物種実とは、灰色砂、灰褐砂、灰茶粘土（SD7090A）から多量に出土している。灰褐砂からは、メロン仲間種子 1920 点（破片 4 点）のほか、モモ核 28 点（破片 36 点）、アケビ属 8 点、オニグルミ核 6 点（破片 8 点）、カキノキ種子 5 点（破片 6 点）などと続く。このほか、チョウセンゴヨウ種子、ハシバミ堅果、クリ果皮、ツブラジイ堅果、スモモ類核、ナツメ核、サンショウ種子、ブドウ属種子、トウガン種子などが出土している。各層ともメロン仲間種子が多く、灰色砂層ではアケビ属種子が 23 点見られる（第 21 表）。

SD7100 二条条間路南側溝。長さ 13 m にわたり検出した。幅約 4.6 m で、断面形状は逆台形を呈する。幾度か改修が行われており、最終的には当初の位置よりやや北に寄っている。奈良時代。

出土種実とは、SD7090 に比べて非常に少ない。埋土からメロン仲間種子のほか、オニグルミ核、クリ果皮、モモ核の破片が見られる（第 21 表）。

SD5200 二条条間路北側溝。SD5200A は A～C 期（奈良時代前半）まで存続する。深さ約 0.4 m。SD5200B は

第 21 表 平城京出土植物種実（8）

分類群	部位	二条条間路南側溝 SD7090							二条条間路北側溝 SD7100		
		灰茶粘土	灰色砂	灰褐粘土	灰褐砂	暗灰粘土	暗灰砂	一括	灰色砂	砂混暗灰粘土	暗灰粘土
木本											
チョウセンゴヨウ	種子		2		1						
ヤマモモ	核		1								
オニグルミ	核	2	3		6	8					1
ハシバミ	堅果				2						
クリ	果皮		36	3	38		3	8			8
ツブラジイ	堅果				4	13	1				
ツブラジイ	炭化子葉	1									
シイノキ属	堅果				1						
ウメ	核				1						
モモ	核		5	6	28	36	2	2			1
スモモ類	核		3		5		1				
サクラ節	核				2						
ナン亜科	種子	1									
アケビ属		8	6	23	1	8					
ムベ	種子			1							
ナツメ	核				3		1				
カキノキ	種子	3	11	11	5	6		1	2		
マツ属複維管束亜属	球果		1					1			
アラカシ	堅果				1						
コナラ属	堅果	1	1	1	1	24					
アカガシ亜属	殻斗				1				1		
サンショウ	種子		1		4						
ブドウ属	種子				1						
草本											
トウガン	種子	2									
メロン仲間	種子	405	384	14	1920	4	12	200	382	2	18
ウリ属	種子				1						14
ヒョウタン仲間	種子	1									3
ヒョウタン仲間	果皮		○		○		○	○			
タデ科	果実				2						
不明・同定不能		1									

分類群	部位	二条条間路北側溝 SD5200			
		284次	280次	120次	
		暗灰粘土	茶灰粘質土	古	灰黒砂
木本					
オニグルミ	核		1		
クリ	果皮			1	
ツブラジイ	堅果	4		2	4
モモ	核		1	10	14
ムクロジ	果実	1			
コナラ属	堅果	1			

分類群	部位	東二坊々間路西側溝 SD4699・SD5021										三条々間北小路		
		SD4699 (198次)			SD4699 (193次)							SD5021	南側溝 SD4359	北側溝 SD4361
		木屑層	黒灰粘土	暗灰砂	中層	下層	茶灰土	暗灰粘土	暗灰砂					
木本														
オニグルミ	核	3		1	2		3	16	9	3		1		
ハシバミ	堅果				1									
クリ	果皮	7	1	10				1	10					
ウメ	核				1									
モモ	核	32	37	1	3	3	1	1	9	3	4	5		
スモモ類	核										1			
マツ属複維管束亜属	球果			2										
草本														
メロン仲間	種子	6		61										
ヒョウタン仲間	果皮		○					○						

幅約 2.0 m、深さ約 0.8 m。5200A の北岸を約 2 m 南に寄せて掘削している。径約 30 ～ 60cm の玉石組の護岸を設けている。南岸東側では側石の抜取穴を検出した。

植物種実として、モモ核のほか、ツブラジイ堅果、ムクロジ果実、コナラ属堅果、オニグルミ核、クリ果皮などが出土している（第 21 表）。

SD4699・SD5021 東二坊々間路西側溝。二条大路以南が SD4699、以北が SD5021 である。SD4699 は、幅 2 ～ 3 m、深さ 0.9 ～ 1.2 m の素掘溝で、南流する。堆積は上から茶灰色土（最上層）、灰色粘土（上層）、暗灰色粘土（中層）、暗灰色砂（下層）の順である。下の 3 層が溝の流れに伴うもので、最上層は埋め立て土である。下 3 層（SD4699A）が二条大路南側溝 SD5094A・B とつながり、最上層をきって SD5094C が東流する。下 3 層からは木簡をはじめとして多くの遺物が出土しており、西側溝は奈良時代中ごろにはかなり埋まっていたと考えられる。

SD4699 は 2 度の調査で検出されているが、植物種実の構成は両者で類似している。198 次調査区の木屑層では、モモ核 32 点（破片 38 点）、メロン仲間種子 6 点のほか、オニグルミ核、クリ果皮が出土している。また、暗灰砂では 61 点のメロン仲間種子が出土している。SD5021 でも、モモ核 13 点（破片 5 点）、オニグルミ核の破片が出土し

第 22 表 平城京出土の植物種実（9）

分類群	部位	SD650								
		砂	1 砂	2 砂	3 砂	灰黒土	1 黒	2 黒	その他	
木本										
ヤマモモ	核									
オニグルミ	核		2	3			2	1		
ヒメグルミ	核		1							
クリ	果皮		15	12	14					
ウメ	核		2	1			4			
モモ	核	11	7	26	22	11	8	3	26	
スモモ類	核		1				40	1	1	
サクラ属	核			1					33	
草本										
ヒョウタン仲間	種子			46	2					
ヒョウタン仲間	果皮		○		○		○	○		

ている（第 21 表）。

SD4359・SD4361 七・八坪間の小路側溝 SD4359・4361 は奈良時代半ばにつくられて一旦廃され、奈良時代後半に再び作られる。改削以降、両側溝は東端で 1 条となり、埋め戻した東二坊々間路西側溝上を東流する。合流部分には石の護岸がある。奈良時代後半から末。

両者とも植物種実の出土は少量である。モモ核およびオニグルミ核が出土している（第 21 表）。

b. 左京一条

SD650 東三坊大路東側溝。南北約 240m の間で、北方から南方に流れる溝を検出した。溝は時期を異にする 2 条の溝が上下に重なる状況で検出した。ここでは時期の古い下層の溝を SD650A とよび、新しい上層の溝を SD650B と呼ぶことにする。2 条の溝は E 地区北半では完全に上下に重なり、それ以南では SD650B が西側により、B 地区南半以南では流路を別にしている。

SD650A は、幅 2.5 m 前後、残存路面からの深さ 1.1 m 内外の素掘溝である。E 地区での横断面は底部の狭い V 字形、D 地区以南では底部の幅が広がり逆台形を呈している。路面 SX600 の南方への傾斜と呼応し、底も北方が高く南方が低い。幅員は必ずしも一定せず、一時的に水たまりになるような場所では若干幅員を広げている。しかしながら、基本的には下層に灰色粗砂、褐色砂などが 25 ～ 40cm の厚さで堆積し、その上に黒灰粘土が 20cm 前後の厚さで堆積し、さらにまた灰色砂などが堆積する。堆積土の中では土器、陶器、瓦、木器など多数の遺物が包含されており、ある部分では土砂の量よりも遺物の量が多い状況を示した。遺物の年代は平安時代の様相を呈し、天長 5 年（828）の告知札が存在することから、平安時代初期の遺構であることが分かる。奈良時代とみられる遺物が全くないわけではないが、それらは溝底に貼り付いた状況で検出された。奈良時代末から平安時代の間に大規模な浚渫工事がおこなわれたと考えられる。

SD650B は、幅 2 m 前後、残存路面から深さ 0.5 ～ 0.9 m で、SD650A の埋没後に掘り開いたものである。底部は平坦面をなす部分もあるが、一般的には凹凸面をなす。この溝も SD650A と同じく北方が高く、南方で低い。D 地区における典型的な体積状況からすれば、下層に褐色系の粗砂が 15cm 内外の厚さで堆積し、その上に黒色粘土が 30 cm 前後の厚さで堆積している。上部の黒色粘土は溝が東側に氾濫したのちに堆積したもので、SD650A の上部を覆う。この溝からも多数の遺物が発見され、下部の時期を寛平大宝（890 年）のころに比定することが可能である。

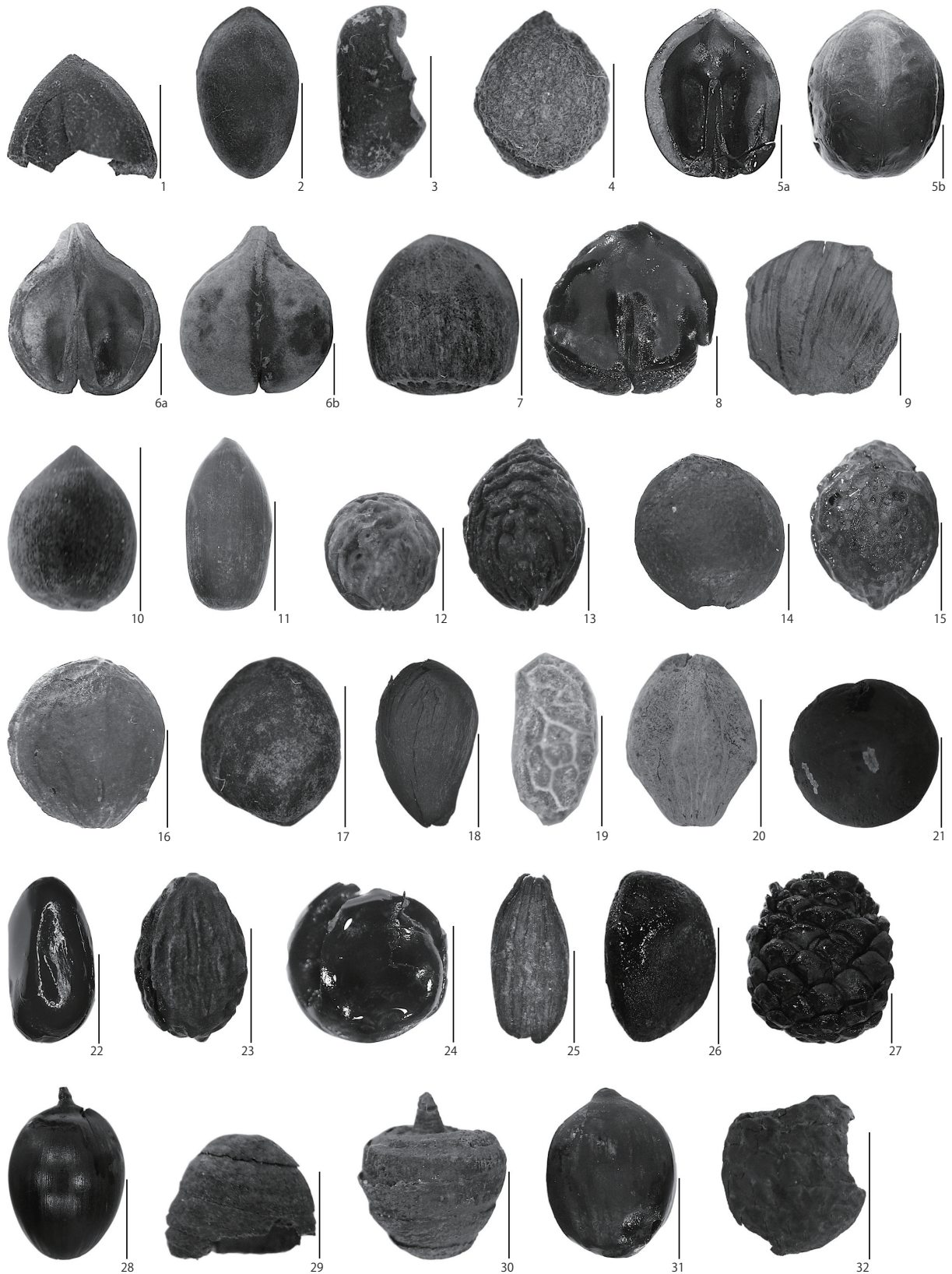
出土種実は、各層ともモモ核が多いことで一致する。このほかに、ウメ核、ヒョウタン仲間種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮、スモモ類核、サクラ属核が出土した（第 22 表）。

c. 左京六条

SD6400 東一坊大路西側溝。断面が逆台形の幅の広い素掘溝で、幅 7.5 m、深さ 1.5 ～ 1.7 m。一部では護岸用の杭を伴うが、横木などは遺存しない。堆積の状況は場所によって若干異なるが、溝は大きく 3 時期の変遷をたどり、堆積層は 7 層に区分できる。最下層は褐色粗砂層で、溝底から溝の側面に残っている。その上には木屑層が堆積し、さらに青灰色砂質土層が堆積している。この段階で溝を掘り直しており、その後の堆積が暗灰砂層である。北東拡張区の西側溝西岸近く、暗灰砂層中で検出した曲物を埋設した遺構 SX6422 は取水施設と考えられるが、この層の堆積環境は長期にわたる滞水環境ではない。この層の上には、暗灰粘土層と青灰細砂層が堆積する。さらにこれらの堆積を開削し、灰色粘土層が堆積する幅 3 m 弱、深さ 0.9 m ほどの蛇行溝 SD6414 となる。堆積の時期は、最下層の褐色粗砂からは奈良時代初めから中ごろの土器、天平年間後半から天平宝字年間（759～766）の木簡が出土しており、奈良時代中ごろまでの堆積と考えられる。次の木屑層からは奈良時代後半以降の土器や天平 2 年から宝亀 3 年の紀年木簡が出土しており、奈良時代後半の堆積と考えられる。奈良時代末にこれらの層を除去する大規模な改修がおこなわれており、

第 23 表 平城京出土植物種実 (10)

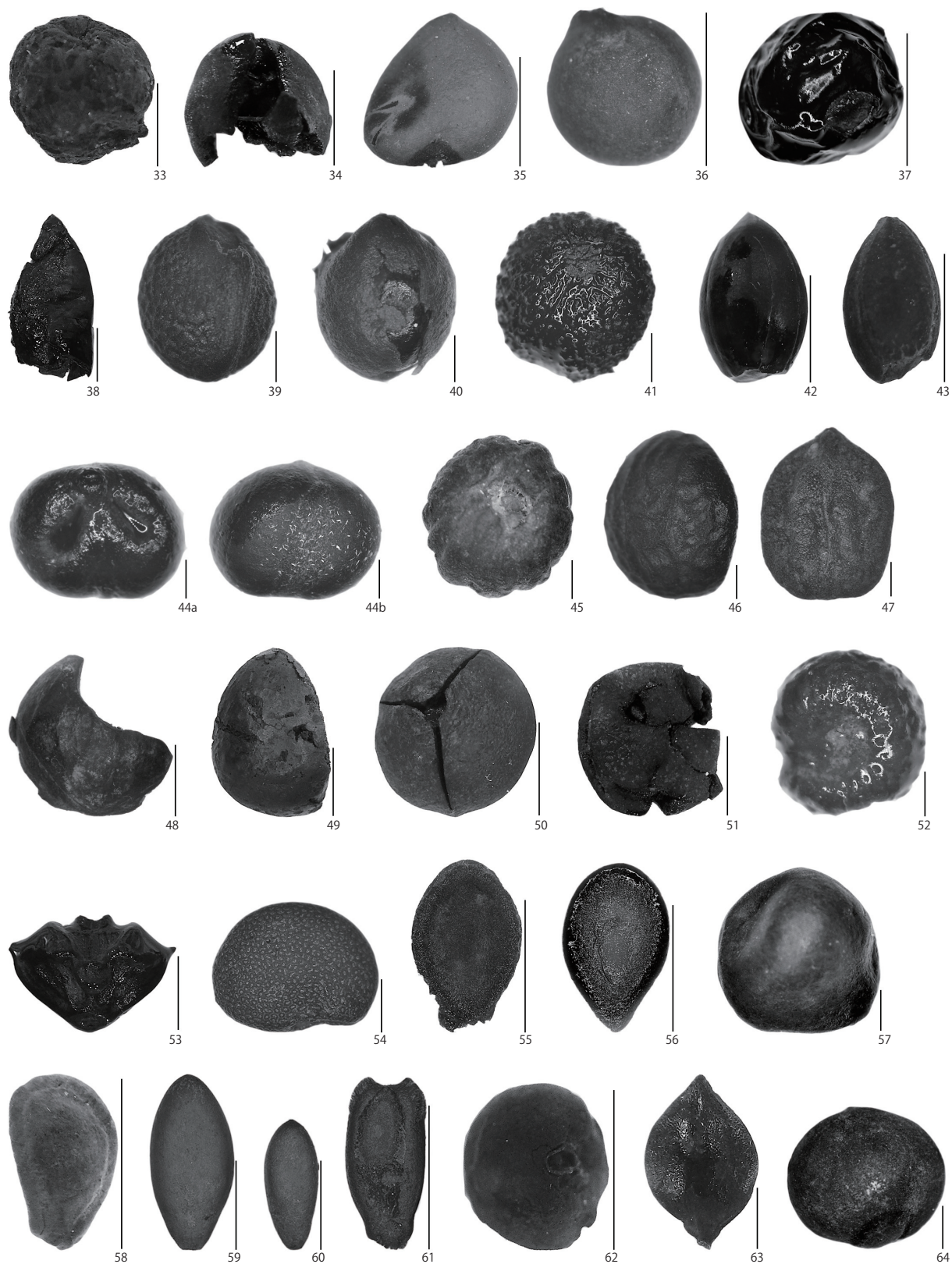
分類群	部位	東一坊大路西側溝 SD6400												
		褐粗砂	木屑層	青灰粘土	青灰砂 曲物内	暗灰粘土	暗灰砂粘	暗灰砂	淡灰砂	灰白砂	灰色砂粘	灰色砂	灰色粗砂	一括
木本														
カヤ	種子	4	3					2						
チョウセンゴヨウ	種子	1	2					1						
ヤマモモ	核	3	48	2		1		8	1					
オニグルミ	核	3 30	1 19	1		4		52			1	1	5	2
ヒメグルミ	核	5	2			1		2	7					
ハシバミ	果実		5					4						
クリ	果皮	4 171	1 2000<	50 1		26		5 400<	2					5
クリ	カット	1	43											
ツブラジイ	果皮	1	1			5		1 5						
ツブラジイ	堅果	1						1						
スダジイ	果実	1												
シイノキ属	堅果	1 25	1 19			4		6 29	4					2
アンズ	核	2 1	1 3					2						
ウメ	核	9 7	56 29			3 1		21 19			1			
モモ	核	36 21	27 30			1 4		26 8	1			1	3	1
スモモ類	核	5 1	11 3			1		9 1						
サクラ属サクラ節	核	2	5 1			1		7						
サクラ属	核	1												
ナシ属	果実	2	1 3					1 2		1				
ナシ属	種子	3	1			1		8						
ナシ亜科	種子	3 1	10 5			1		9	1				5	
ナシ亜科	果実	1												
センダン	核	8 2	46 5					15 4						
ムクロジ	種子	3						2						
ムクロジ	果実	16 34						2						
ムクロジ	殻斗							3						
アケビ属	種子	9	22 4					16 8					16	
ムベ	種子	3	1					3					1	
ナツメ	核	6 1	23			2		6 2	2					
グミ属	核		1											
カキノキ	種子	4 2	4 3		1			4 15	2					2
マツ属複維管束亜属	球果	3	1					1						
イチイガシ	幼果	1												
コナラ属	堅果	17 3	2 1					26 27		1		1	5	
コナラ属	幼果	3												
コナラ属	殻斗	1												
コナラ亜属	幼果	1	1					1						
コナラ亜属	堅果	3 2						1						
コナラ亜属	殻斗	2	1					5						
アカガシ亜属	果実													
アカガシ亜属	幼果	27	1					3		2				
アカガシ亜属	堅果	5												
アカガシ亜属	殻斗	10 3	1					7 2				1	2	
コブシ	種子		1					1						
クスノキ	種子		1			1								
クスノキ科	種子	30												
クロモジ属	果実		3											
フジ属	果実	2						1						
サンショウ	種子	1	8					7					1	
アカメガシワ	果実	4	10 1					3						
ブドウ属	種子	2	3					2			1			
ツバキ属	種子								1					
ミズキ	核	7						2						
エゴノキ	核													
エゴノキ	種子	27 4	5					8 5						
ハクウンボク	核		1					1						
クサギ	種子	1	1					1						
ガマズミ属	核		5											
トチノキ	種子	2 2				3	1	1						
トチノキ	果実	1						4		1				1
トチノキ	未熟果													
アオツツラフジ	核								1					
草本														
ヒシ	果実	5	1 11					7						
ナス属	種子	1	7		28									
トウガン	種子	3	10					1	2				1	
スイカ	種子													
メロン仲間	種子	329 1	2802 1		85	17	1	1805 21	34				15	
キカラスウリ	種子							3 1						
スズメウリ	種子	1	2					1						
ウリ属	種子	1	1											
ヒョウタン仲間	種子		7					1						
ヒョウタン仲間	果皮		○					○		○				
ヤナギタデ	果実	2	9											
オニバス	種子												1	
ケンボナシ属	種子													1
カナムグラ	核	1												
不明・同定不能			2 3		1			2						



スケール 10mm : 1-3,5-16,20,21,23,26-32 5mm : 4,17,18,22,24,25 1mm : 19

1. カヤ種子、2. イヌガヤ種子、3. チョウセンゴヨウ種子、4. ヤマモモ核、5. オニグルミ核、6. ヒメグルミ核、7. ハシバミ堅果、8. クリ果実、9. クリ果皮(六角加工)、10. ツブラジイ堅果、11. シイノキ属堅果、12-13. モモ核、14. アンズ核、15. ウメ核、16. スモモ核、17. サクラ属サクラ節核、18. ナシ亜科種子、19. キイチゴ属核、20. センダン核、21. ムクロジ種子、22. ムベ・アケビ属種子、23. ナツメ核、24. ケンボナシ属種子、25. グミ属種子、26. カキノキ種子、27. マツ属球果、28. アカガシ亜属堅果、29. アカガシ亜属殻斗、30. アカガシ亜属幼果、31. コナラ属堅果、32. コナラ属殻斗

第 11 図 東一坊大路西側溝 SD6400 から出土した大型植物遺体 (1)



スケール 10mm : 33,38,42,43,48-50,53,55,58,62 5mm : 34-37,51,56,59,60 1mm : 39-41,44-47,52,54,57,61,63,64

33. コナラ属幼果、34. ムクノキ核、35. コブシ種子、36. クスノキ種子、37. クロモジ属果実、38. フジ属果実、39. サンショウ種子、40. サンショウ種子（皮付）、41. アカメガシワ種子、42. ハクウンボク核、43. エゴノキ種子、44. ブドウ属種子、45. ミズキ核、46. クサギ核、47. ガマズミ核、48. トチノキ種子皮、49. トチノキ果皮、50. トチノキ幼果、51. トチノキ未熟果、52. アオツツラフジ核、53. ヒシ果実、54. ナス属種子、55. トウガン種子、56. スズメウリ種子、57. ウリ属種子、59. メロン仲間種子（モモルディカ型）、60. メロン仲間種子（マクワ・シロウリ型）、72. キカラスウリ種子、61. ヒョウタン種子、62. オニバス種子、63. ヤナギタデ瘦果、64. カナムグラ核

第 12 図 東一坊大路西側溝 SD6400 から出土した大型植物遺体（2）

その後に堆積した暗灰砂層からは、天平宝字7年から12～13世紀の土器が出土しており、最終的にはこの時期に埋められたと考えられる。

植物種実 は多量に出土している。写真は第11・12図に示した。最下層の褐色粗砂層では、メロン仲間種子が329点（破片1点）と最も多く、次いでモモ核36点（破片21点）、クスノキ科種子30点、エゴノキ種子27点（破片4点）、ムクロジ果実16点（破片34点）、ウメ核9点（破片7点）、センダン核8点（破片2点）などと続く。その上の木屑層でも、メロン仲間種子が2802点（破片1点）と最も多いが、以下はウメ核56点（破片29点）、ヤマモモ核48点（破片2点）、センダン核46点（破片5点）、モモ核27点（破片30点）、ナツメ核23点、アケビ属22点（破片4点）と続き、最下層の状況とやや異なる。さらに改修後の堆積である暗灰砂層からは、メロン仲間種子1805点（破片21点）とやはり最も多く、ついでモモ核26点（破片8点）、コナラ属26点（破片27点）、ウメ核21点（破片19点）、アケビ属16点（破片8点）、センダン核15点（破片4点）と続く。このほか、これらの層では、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、アンズ核、スモモ類核、サクラ属サクラ節核、ナシ亜科種子、コブシ種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、ミズキ核、クサギ種子、トチノキ種子、ナス属種子、トウガン種子、スズメウリ種子、ヤナギタデ果実などが出土しており、分類群の構成は類似している（第23表）。

SD6449 六条大路南側溝。幅5.0～5.5m、深さ0.9mの素掘溝で、溝底の標高は53.9m。堆積層は下から青灰粘土、灰色粘土、灰黄シルト、茶灰シルト、黄褐土の順である。茶灰シルトまで埋まった段階で、南寄りに幅0.7m、深さ0.3mの小規模な溝を掘り直している。遺物としては奈良時代前半の土器が少量出土した。奈良時代。

植物種実として、イヌガヤ種子、ムクロジ種子、ミズキ核、トチノキ種子などが出土している（第24表）。

SD6451 六条大路北側溝。幅4.5～4.7m、深さ0.7mの素掘溝で、溝底の標高は53.4m。溝の上部は南側溝同様に六条大路の路面側に広がっており、それを含めると溝幅は5.9mになる。堆積層は下から灰褐砂、灰黒粘土、暗灰粘土、暗灰砂質粘土、暗灰シルト、黄灰砂質土。暗灰粘土層および灰褐砂層からは奈良時代の荷札木簡がそれぞれ1点ずつ出土している。奈良時代。

植物種実として、モモ核1点（破片1点）が出土している（第24表）。

d 左京九条一坊

SD1300 東堀河。九坪の中央から北から南に縦断して流れる。堀河は当初、幅約10m、深さ1.4mの素掘り、後に幅を狭めてシガラミによる護岸をおこなっている。河底はほぼ平坦で、両岸とも急傾斜の掘り込みとなる。堆積層は両岸近くは粘土層、中央部は砂層で、砂層はシガラミを設けて護岸を施した以前と以後の堆積層の2層に大きくわかれる。上層砂層の下部および下層砂層からは木簡をはじめとして木製遺物、土器、金属器などの多量の遺物が出土した。堀河の廃絶期は遺物から9世紀前半とみられる。

植物種実として、モモ核が最も多く灰色砂では77点（破片27点）出土している。また、灰荒砂からは、メロン仲間種子が20点出土している。このほかの種実 は数点ないし、破片資料で、オニグルミ核、クリ果皮、ウメ核、アラカシ堅果、オナモミ果実などがある（第25表）。

SD1155 九・十坪境の東西小路（SF1160）の南側溝。幅3.4～3.8m、深さ1.2mあり、西に流れ東堀河に落ちる。

植物種実として、モモ核が最も多く灰色砂では190点（破片83点）出土しており、メロン仲間種子88点（破片1点）が次ぐ。このほかにアンズ核、ウメ核、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ナシ亜科種子が少量ないし破片資料で出土している（第25表）。

f 右京八条一坊

SD920 西一坊々間大路（SF910）西側溝。溝上面の幅は5.50m～11.00m、溝底の幅は3.00m～8.00m、深さは約1.5～1.75mを測る。東側溝SD880が小規模で、雨水排水を全て西側溝SD920で受けるにしても、道路側溝に不相応に大規模である。埋土の状況から溝は3時期に分けることができる。A期の溝は、平城宮造営当初の溝で、堆積層はない。B期の溝は両岸を暗灰色粘土で護岸している。溝の堆積は最下層が灰黒色の粗砂層で、流れによる挟れのためか、一部護岸のための粘土も下層にもぐりこむ。この上に砂層と粘質土層とが互層をなし、溝幅はA期のものよりも約2～3m狭くなっている。暗灰色粘土層からは主として平城宮Ⅱ・Ⅲの土器が出土した。C期の溝はやや狭く浅くなり、堆積土は灰色の細砂を主体とする。出土遺物は少ないが、主として奈良時代末期から平安時代初期のものである。これらの溝を最終的に赤褐色の均一な粘土で埋める。埋土は厚さ0.2～0.3m、幅約7.0mで、西

第24表 平城京出土植物種実（11）

分類群	部位	六条大路 SF6450		
		南側溝SD6449		北側溝SD6451
		灰色砂粘	暗灰砂	灰黒粘土
木本				
イヌガヤ	種子		2	
モモ	核			1 1
ムクロジ	種子		2 3	
コナラ属	殻斗	2		
アカガシ亜属	殻斗		1	
ムクノキ	核		1	
ミズキ	核		1	
トチノキ	堅果	16	1	
不明・同定不能			2	

第 24 表 平城京出土植物種実 (12)

分類群	部位	東堀河 SD1300 (141-23次)				SD1300 (93次)	SD1155
		灰色粘土	灰色砂	灰荒砂	暗灰砂		
木本							
オニグルミ	核			3			5
ヒメグルミ	核						2
クリ	果皮		10				17
アズナギ	核						1
ウメ	核		1	4	1	2	1
モモ	核	1	77	27	43	17	1
ナシ亜科	種子					31	13
アラカシ	堅果		3				190
草本							
メロン仲間	種子		1	20			88
ヒョウタン仲間	種子						1
オナモミ	果実		1				
不明・同定不能			1				

分類群	部位	西 1 坊間大路西側溝 SD920								SD1496	
		黒褐粘土	黒褐土	黒灰粘土	灰色粗砂	灰色砂	暗灰粘土	③	④	一括	最下層新
木本											
オニグルミ	核		1						2		1
ヒメグルミ	核		1								
クリ	果皮		15			6			10		3
モモ	核		2	5	3	1	16	10	1	2	10
草本											
ヒョウタン仲間	果皮		○								

分類群	部位	SD1525		SG1504	
		河川中	池石間		
木本					
オニグルミ	核				
モモ	核				
マツ属複維管束亜属	球果		11	6	
マツ属複維管束亜属	種子			9	
マツ属複維管束亜属	種鱗			112	
草本					
メロン仲間	種子	40	4		
ヒョウタン仲間	果皮				

一坊々間大路の路面にまで及んであり、おそらく路面敷を削って埋め立てたものであろう。この層から 9 世紀におさまる灰釉陶器片が出土している。

植物種実として最も多いのは、モモ核である。このほかオニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮が出土している（第 25 表）。

SD1496 十三坪・十四坪間の坪境小路（SF2000）の南側溝。溝幅が約 1.5 m、深さ 40 ～ 50cm である。溝底のレベルは東の方が低く、水は西から東へ流れていたと考えられる。埋土からは平城 I ～ V の土器が出土した。

植物種実として、モモ核 10 点が出土した。（第 25 表）

（3）その他の溝、園池

a. 左京三条二坊

SG1504 六坪にある園池。園池は、平均幅 15 m、延長 55 m あり、池全体を石組で固め、曲池とするような形で蛇行している。導水口、溢水口の高さから、水面の幅は、広いところで 5 ～ 6 m、狭いところで 2 m、平均 3 m 前後である。水深は広いところで最も深く 25cm、平均 20cm である。水際は全面玉石を一列に立てて据えつけている。池の堆積土は、底石の上に 20 ～ 30cm の厚さで植物種実を含む灰褐色粘土がある。この層は、導水施設から流入したものではなく、池の使用時期に自然堆積したものと思われる。また、この上層からは土師器、瓦などが出土し、この年代から池の廃絶は奈良時代末期に比定できる。

報文（奈文研 1976）では、出土植物種実として、クロマツ球果 61 点、モモ核 5 点、ウメ核、センダン核 7 点、センダン種子 3 点、ヒルムシロ果実 1 点、ヘラオモダカ種子 1 点、ウツギ蒴果 9 点、ゴキズル種子片 3 点を挙げている。現状で保管されている種実は、池石間から出土したマツ属複維管束亜属に限られる（球果 11 点など）（第 24 表）。

SD1525 園池 SG1504 に導水するための導水路。園池と同様旧河川 SD1560 を利用した幅 4 ～ 7 m の溝で、園池の手前で滞留し、木樋 SX1523 により導水している。導水路の堆積土の下層より、造営時に廃棄されたものと思われる多量の加工木片とともに「和銅」の年紀をもつ木簡が出土した。

植物種実として、埋土からメロン仲間種子 40 点（破片 4 点）が出土している（第 25 表）。